

* 令和2年度「学びの変革」学習指導案 *

- 「Unit3 Career Day」～society5.0(人生100年時代)を君たちはどう生きるか～
(英語科) P.2-P.7
- 「Unit4 To Our Future Generations」～HIBIZAKI SURVIVAL PROJECTS 外国人に
救いの手を！～(英語科) P.8-P.13
- 「合唱」～記憶に残る学年合唱にするためには・・・～(音楽科) P.14-P.20
- HIBIZAKI SURVIVAL PROJECTS」～美術編～(美術科) P.21-P.26
- 「世界の諸地域 アフリカ州」甘いチョコレート 苦い現実～資源が豊富なのに、
なぜアフリカの人々は貧しいのだろうか～(社会科) P.27-P.35
- 「関東地方」東京オリンピックを成功させよう～オリンピックを支える東京大都市
圏の機能を説明する～(社会科) P.36-P.42
- 「B 衣食住の生活」ヒビザキ食のお悩み相談室～健康を支える食生活とは？～(家
庭科) P.43-P.48
- 「文法 文の組み立て」～よりよい文の作り方～(国語科) P.49-P.53
- 「メディアと上手に付き合うために」～HSP 南海トラフ大地震を生き残るための情
報源はどれだ！～(国語科) P.54-P.59
- 「器械運動(跳び箱運動)」～頭はね跳びの My Point は？～(保健体育科)
P.60-P.65
- 「傷害の防止」HIBIZAKI SURVIVAL PROJECTS—人命救助編—～人命救助における応
急手当に必要なことは？～(保健体育科) P.66-P.70
- 「1次関数」～日常の中にある問題を解決しよう～(数学科) P.71-P.77
- 「身のまわりの物資」いろいろな気体とその性質～身の周りのものから発生する気
体～(理科) P.78-P.86
- 「お札をキャッチ！」～すぐにキャッチできない理由を考えよう～(理科)
P.87-P.91

「Unit3 Career Day」 ～ society5.0 (人生 100 年時代) を君たちはどう生きるか ～

本単元で育成する資質・能力

(教科・学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和2年9月18日 13:00～13:50
- 2 学年 第2学年3組 (男子15名 女子16名 合計31名)
- 3 場所 新館3F 2年3組教室
- 4 単元について

○ 教材観

本単元は、生徒にとって身近な話題である職業体験を扱っている。中学2年生のこの時期は、漠然とした夢から自分の将来の職業について具体的に考え始める時期でもある。またなでしこジャパンのキャプテン宮間あやさんの事例は、スポーツの話題で生徒が興味を持ちやすく、英語を使って世界へ活躍の場を広げるモデルの一つにもなり得る。キャリア教育の視点から、自分の将来の夢から society5.0 の時代を生きていく姿を考えるきっかけに適している単元である。

将来の夢を語るうえで欠かせない want to... など不定詞の3つの用法が扱われている。この言語材料を用いることで、場面に応じた表現の幅を広げることができる。

新学習指導要領における1目標(4)話すこと〔発表〕イ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」を指導することと位置づける。

○ 生徒観

本学級の生徒は、授業に意欲的に取り組む生徒が多く、音読練習において意欲的に声を出しており、また発問に対しても積極的に挙手をして発言するなど、前向きに学習に取り組んでいる。しかし、小学校からの外国語活動の成果が十分うかがえる生徒がいる反面、生徒間の学力差は大きく、音とつづりとの関係の理解ができておらず、発音はできてもその単語や文章を書くことが難しい生徒もいる。

「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること」や「つなぎ言葉を用いることなどいろいろな工夫をして話を続けること」については、多くの生徒において、It is interesting. などの短文で伝えることはできるが理由をとまなうなど、複数の文章で具体的に伝える事は難しい。

	肯定的な評価
英語の授業では、ペアやグループなどで活動を行うことが好きです。	92.8%
英語の授業では、話が続くようにつなぎ言葉などを用いて話しています。	85.7%
英語の授業では、知らない表現が出てきたときは、これまでに習った他の表現を使って話しています。	89.2%
英語の授業では、聞き手を意識して、自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるように話しています。	89.2%

○ 指導観

指導に当たっては、ソーシャルディスタンスを保ちながら、実践的な会話能力を育成する観点から、ペア活動やグループ活動を積極的に取り入れ、自分の思いを表現させる場を多くもつことに重点を置いている。「聞くこと」「話すこと」ができれば、英語がわかったという自信に少しでもつながり、学習への意欲や「書くこと」への意欲につながると考えている。

本単元の指導に当たっても、ペア活動やグループ活動を生かし、様々な表現方法を友達から知り、理解させ、自分の将来について語れる力をつけたい。また小学校で自分の夢を語る経験をしているので、過去と現在を対比し、society5.0の時代を生きる姿を述べさせたい。生徒が自分で調べた情報を用いながら、スピーチを行う。小グループでスピーチの練習を行い、聞き手を意識したスピーチになるようにアドバイスをしながら、互いによりよいものにしていく過程を重視し、評価する。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	（話す speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やり取り） ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		（話す tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やり取り） ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		（話す talk） ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じた、適切な方法で論理的に表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	（やり取り） ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

- 何かをする目的を述べることができる。【表現】
- 夢や希望などについて述べるができる。【表現】
- レポートを読んでその内容を理解することができる。【理解】
- 情報をつけ足して説明することができる。【表現】
- 自分の行きたい場所やしたいことなどについて、たずねたり相手を意識して伝えたりすることができる。 【関心・意欲・態度】【表現】

7 評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
・間違いを恐れず、積極的に話そうとしている。	・自分のことについて書くことができる。 ・自分の将来について話すことができる。 ・聞き手を意識したスピーチができる。	・対話や将来の夢を聞いて、その情報を聞きとることができる。 ・感想や夢について文の内容を読みとることができる。	・不定詞（名詞的・副詞的・形容詞的）の意味・用法に関する知識を身につけている。

8 指導計画（全14時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評 価	
			関意	表現	理解	知識	評価規準	資質・能力 （評価方法）
単元を貫く問い（探究課題の萌芽） society5.0(人生100年時代)を君たちはどう生きるか								
課題の設定	1	・不定詞の副詞的用法の理解（1時間）				○	・不定詞（副詞的）の意味・用法に関する知識を身につけている。	【主体性】（観察）
		・本文理解（1時間）			○		・感想や夢について文の内容を読みとることができる。	【主体性】（観察）
情報収集	2	・不定詞の名詞的用法の理解（1時間）				○	・不定詞（名詞的）の意味・用法に関する知識を身につけている。	【主体性】（観察）
		・本文理解（1時間）			○		・感想や夢について文の内容を読みとることができる。	【主体性】（観察）
	3	・不定詞の形容詞的用法の理解と不定詞のまとめ（1時間）				○	・不定詞（形容詞的）の意味・用法に関する知識を身につけている。	【主体性】（観察）
		・本文理解（1時間）			○		・感想や夢について文の内容を読みとることができる。	【主体性】（観察）
4	・本文理解（1時間）			○		・感想や夢について文の内容を読みとることができる。	【主体性】（観察）	
まとめ	5	・聞き取りとコミュニケーション活動（1時間）	○		○		・対話や将来の夢を聞いて、その情報を聞きとることができる。 ・たずねたり、答えたりすることができる。	【コミュニケーション能力】（観察）
		・日常生活について英語でメールを書く（1時間）		○			・自分のことについて書くことができる。	【表現力】（ワークシート）
創造	6	・将来の夢について表現する（1時間）		○			・自分のことについて書くことができる。	【表現力】（ワークシート）

表現	・100年時代を生きる自分の姿を伝える【本時3/4】	○	○	・間違いを恐れず、積極的に話そうとしている。 ・自分の将来について話すことができる。 ・聞き手を意識したスピーチができる。	【主体性・表現力】(観察・ワークシート)
----	----------------------------	---	---	---	----------------------

単元を貫く問いの終結

小学生の時の夢と現在を比較し、人生100年時代を生きる自分の姿を考えることができる。スポーツ選手になり引退したあとどうするのか、定年まで勤めた後どのような生活を過ごすのかなど、考え伝えることができる。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- society5.0 を生きる自分の姿を聞き手に伝わるように表現しよう。

(2) 本時の評価規準

- ・間違いを恐れず、積極的に話そうとしている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(3) 準備物

- ・アドバイスカード ・ワークシート ・辞書

(4) 学習の流れ (13時間目/全14時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 既習事項の確認。【3分】		
○前時の活動の確認	◇原稿を確認させる ◆聞き手を意識したスピーチになるように原稿を読ませる	
2 本時の学習課題を設定する。【1分】		
○学習課題の確認		
学習課題 「よりよいスピーチになるように、アドバイスしよう」		
3 本時のねらいを確認する。【2分】		
○ねらいの確認	◇ワークシートを配布し、ねらいを確認する	
ねらい 「society5.0 を生きる自分の姿を聞き手に伝わるように表現できる」		

単元を貫く問い

考える
話し合い
準備

4 情報を整理・分析し、課題を見つける。[30分]		
○グループで発表し合い、アドバイスカードの記入をする	◆項目に沿ってアドバイスを書かせる	・間違いを恐れず、積極的に話そうとしている。 〔関心意欲態度〕
予測される生徒の態度 A評価 たくさんアドバイスを書いている B評価 声の大きさについてしかアドバイスしていない		
○モデルスピーチを見て、気づきを出し合う	◇スピーチのポイントを確認する ◆原稿を読むだけの発表にならないようにする	
<p>Hello! I'm Keiko TANEMOTO. I wanted to work at a hospital as a technician about 20 years ago. It's a kind of doctor, checking blood or something. But now I want to be an English teacher. I have two reasons. First, I like to talk with foreign people. Second, I like to teach. From my 20' s to 60's, I'm going to be an English teacher. In my 50's, I am going to be a member of volleyball referees in the Olympic Games. In my 70's, I want to see my grandchildren. And I'm going to visit my referee friends in Asia. This is my life plan. Thank you.</p>		
○モデルスピーチを聞いて気づきを書く	◆ワークシートに気づきを記入させる	
5 課題解決をする。[15分]		
○改善を考える		★表現力（観察）
○再度スピーチをグループでし合い、アドバイスカードに書き込む	◇1 回目のアドバイスとモデルスピーチを聞いて気づいたことを改善したスピーチをさせる	
予測される生徒の変容 A評価 1 回目のアドバイスとモデルスピーチを活かしてスピーチしている B評価 1 回目と全く変わらない		

6 本時を振り返り, 次時につなげる。[4分]

○1回目のスピーチからの
変容を踏まえて振り返り
を書く。

生徒の振り返りの例

- ・友達に理解してもらえてうれしかった。アドバイスを意識して本番のスピーチをがんばりたい。
- ・具体的な内容のスピーチだった。文章を加えたい。
- ・友達の考えている事が知れて新鮮だった。将来が楽しみ。
- ・アドバイスをすることができた。

○あいさつをする

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック (パフォーマンス評価)

尺度 (評点・レベル)	記述語
A (理想的)	聞き手 (クラスのみんな) が理解できるスピーチになるように, 表情やスピードに加え, 内容についての改善することができる
B (合格)	聞き手 (クラスのみんな) が理解できるスピーチになるように, 表情やスピードなどについての改善策することができる
C (乗り越えさせたい実態)	改善が見られず, 聞き手のことを考えていないスピーチになっている

(5) 板書計画

Warm up Presentation Evaluation	Unit 3 Task よりよいスピーチになるように, アドバイスをしよう。 Today's Goal	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> society5.0を生きる自分の姿を聞き手に伝わるように表現できる </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <チェック項目> <ul style="list-style-type: none"> ・声 (大きさ・強弱・スピード) ・表情 ・伝えるための工夫 </div>
---------------------------------------	--	---

「Unit 4」 To Our Future Generations ～ HIBIZAKI SURVIVAL PROJECT 外国人にも救いの手を！

本単元で育成する資質・能力

(教科・学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和2年9月18日 14:05～14:55
- 2 学年 第3学年2組 Bコース (男子12名 女子8名 合計20名)
- 3 場所 本館3F 3年2組教室
- 4 単元について

○ 教材観

本単元は、英文の避難訓練のお知らせ、防災に関する登場人物の対話、さらに被災地の流木で製作されたバイオリンと、その演奏リレーについてのエピソードから成る教材である。万一災害が起きたときには、その場にいる人が相互に助け合う必要があり、そこで英語が必要になることも十分に想像できる。その可能性のひとつとして、避難所がある。外国でも国によっては災害とは無縁で避難所がなく、どういう場所かもわからない外国人がいる。その人たちのために、尾道市の避難所のパンフレットを英語で作製する。今年度、本校では総合的な学習の時間に防災教育を行っており、そこで得た知識を活用し、避難所での過ごし方を含めたパンフレットを考えさせたい。なお、パンフレットには美術科で考案したピクトグラムを使用することとする。

本単元では、中学校学習指導要領外国語における「書くこと」の目標である「イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。」を指導することと位置づける。

○ 生徒観

本学級の生徒は、ひとつのクラスを習熟度別に分けた基礎コースの生徒である。アンケートに以下のように答えている。

	肯定的回答
・英語の勉強は好きだ。	58.8%
・英語の授業を楽しみにしている。	94.1%
・英語の授業で学んだことが、他の教科や生活の中で、読んだり話したり、コミュニケーションをとったりすることに役に立っていると思う。	88.2%
・英語の授業以外で英語を使ってみたいと思う。	64.7%
・英語の授業で、自分の考えや気持ちなどを英語で書くことができる。	52.9%

英語を苦手としていても、英語の授業を楽しみにしていたり、授業で学んだことを他に活かそうとしたり、とても意欲的な生徒が多い。半分くらいの生徒が書くことを不得意としている。

○ 指導観

指導に当たっては、英語に対して苦手意識があるので、1年生の文法の復習から入るようにしている。1年生の文法を復習しながら新出文法を学習することで、1年生に学習した基本的な英文でも事実や自分の考えが伝えられることを理解させたい。また、本単元では英作文をする前に日本語を簡単にすることに重点を置いて指導する。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で (ミニホワイトボード等を使用して)	(話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やり取り) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		(話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やり取り) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やり取り) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

○ 日本語が話せない人のために、避難所のパンフレットを英語で作ることができる (書くこと)

7 評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 間違いを恐れずに積極的に事実や自分の考え、気持ちなどを伝えようとしている。	① 避難所に関して読んだり調べたりしたことについて、事実や感じたことなどを整理し、簡単な語句や文を用いて書くことができる。	① ゆっくり話されれば、社会的な問題について要点を捉えることができる。 ② 本文の内容を理解することができる。	① 「疑問視+to+動詞の原形」の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。 ② 「It is … (for 人)+to+動詞の原形」の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。

			③ 「want+ (人) +to +動詞の原形」の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。
--	--	--	---

8 指導計画 (全12時間)

過程	次	学習内容 (時数)	観 点				評 価	
			関意	表現	理解	知理	評価規準	資質・能力 (評価方法)
課題の設定	1	外国の避難所の話を聞き、尾道の避難所のパンフレットに載せる情報を考える (1時間) 【本時1 / 1】	○		◎		ア①・ウ① (観察・ワークシート)	【主体性・コミュニケーション能力】 (ワークシート)
単元を貫く問い (探究課題の萌芽)								
日本語がわからない外国の人に 避難所での過ごし方を伝えるためにパンフレットを作ろう								
情報収集	2	「疑問視 + to + 動詞の原形」の形・意味・用法理解 (1時間)				○	エ① (ワークシート, テスト)	【表現力】 (ワークシート)
	3	「It is … (for 人) + to + 動詞の原形」の形・意味・用法理解 (1時間)				○	エ② (ワークシート, テスト)	【表現力】 (ワークシート)
	4	「want+ (人) +to +動詞の原形」の形・意味・用法理解 (1時間)				○	エ③ (ワークシート, テスト)	【表現力】 (ワークシート)
整理・分析	5	本文内容理解 (4時間)			○		ウ② (観察・テスト)	【コミュニケーション能力・主体性】 (観察)
まとめ・創造・表現	6	避難所の過ごし方に必要な説明を整理し、原稿を作る (2時間)	○	◎			ア①・イ① (観察・ワークシート)	【コミュニケーション能力・表現力】 (観察)

実行・振り返り	7	パンフレットを作製する (2時間)	○	◎		ア①・イ① (観察・ワークシート)	【コミュニケーション能力・表現力】(観察)
---------	---	----------------------	---	---	--	-------------------	-----------------------

単元を貫く問いの終結

- ・パンフレットを作製し、見て理解できるようにする。
- ・美術科で考えたピクトグラムを使用することで、理解しやすいようにする。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○パンフレットに必要なことを書きだすことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・間違いを恐れずに積極的に事実や自分の考え、気持ちなどを伝えようとしている。【関心・意欲・態度】
- ・ALTのプレゼンを聞いて、外国の避難所の情報について理解している。【理解】

(3) 準備物

- ・パソコン
- ・テレビ
- ・ワークシート
- ・ホワイトボード
- ・ホワイトボード用マーカー
- ・ふせん

(4) 学習の流れ (1時間目/全12時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 既習事項の確認。[3分]		
○あいさつ	◇英語の学習を始める雰囲気を作る。	
2 本時の学習課題を設定する。[10分]		
○学習課題の確認	◇ALTのプレゼンを理解しているか確認し、	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題</p> <p>日本語がわからない外国の人に 避難所での過ごし方を伝えるためにパンフレットを作ろう</p> </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ALT:</p> <p>Hello. I'm going to tell you about Evacuation Shelters.</p> <p>In South Africa, we usually don't have earthquakes, typhoons or floods. Because South Africa is very dry, we often have fires. We practice fire drills at school and at work. I asked some of the other ALTs what they do in their countries.</p> <p>Trinidad and Tobago often have floods that are very dangerous. Some of the houses close to the sea are built on stilts to protect them from the water. Here are more examples of houses built on stilts.</p> <p>Singapore also gets floods sometimes. They have barriers that can quickly be moved to protect buildings and stores from flood damage.</p> </div>		

単元を貫く問い

導入の工夫

Guam gets typhoons often, so they are usually prepared. They have a pdf document where you can find information in English on how to prepare for a typhoon. They also have evacuation shelters where people can wait for typhoon to pass.

New Zealand has earthquakes, landslides and volcanoes. They have a website with useful information in English to help prepare you for an emergency. They have big evacuation shelters to help keep you safe.

Australia, like South Africa is very dry. They had really big fires in January this year(2020). It was very dangerous to go outside or stay in your house. They have a pdf document where you can find information in English on how to prepare for bush fires. They also have evacuation shelters.

I don't know a lot about evacuation shelters in Onomichi. Can you please tell me more about it? Let's make a pamphlet using easy English to help tourists and people living in Onomichi to learn more about evacuation shelters.

3 本時のねらいを確認する。[2分]

○ねらいの確認

ねらい

パンフレットに必要なことを書きだすことができる。

4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[20分]

○グループに分かれて、パンフレットに載せる情報を考える

◇ブレインストーミングをするため、友達の意見を否定しないことを確認する
◆避難所での過ごし方を説明するために必要な内容を考えさせる

[ア①・ウ①]
(観察・ワークシート)

★主体性・コミュニケーション能力
【ワークシート】

5 課題解決について発表をする。[5分]

○グループの意見を発表する

◇出し合った意見をホワイトボードにまとめ、発表させる

予測される生徒の考え

A評価 避難所がどういう場所なのかという説明が必要だ

ふとんで寝なければならない など文化の違いを意識した具体的な提案

B評価 表紙・説明・など あまり具体的でない提案

6 学習のまとめをする。[5分]		
○提案をまとめる	◇グルーピングをして生徒の意見をまとめ、提案を整理する	
7 本時を振り返り、次時につなげる。[5分]		
○振り返りを書く。		
<p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界には避難所があるところとないところがあり、あるところにはパンフレットが存在することがわかった。 ・外国の人が見てわかりやすいパンフレットを作りたい。 		
○あいさつ	◇次回から原稿を書くことを伝える	

小グループの活用

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

思考を深める学び合い

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	避難所での過ごし方を説明する英文を書くことができる。さらに、友達が書いた英文に修正を加えることができる。
B（合格）	避難所での過ごし方を説明する英文を書くことができる。
C（乗り越えさせたい実態）	避難所での過ごし方を説明する英文が書くことができない。

（5）板書計画

Task 日本語がわからない外国の人に 避難所での過ごし方を伝えるためにパンフレットを作ろう

Today's Goal パンフレットに必要なことを書きだすことができる

Unit Unit 4

「 合唱 」

～ 記憶に残る学年合唱にするためには・・・ ～

本題材で育成する資質・能力
(学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和元年9月18日 13:00～13:50
- 2 学年 第3学年2組 (男子23名 女子19名 合計42名)
- 3 場所 本館3F 音楽室
- 4 題材について

○題材観

本題材は、中学校学習指導要領音楽（平成29年）の〔第2学年及び第3学年〕（1）「A表現」（1）ア「歌詞表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。」イ（ア）「曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりを理解すること。」を扱う。

今回教材として取り上げた曲は、例年10月に行われる尾道市中学校音楽コンクールでの自由曲として選曲したものである。今年度は開催中止ということになったが、生徒がこれまで学んできた技能を生かして、曲想を味わうことによって、それぞれの曲にふさわしい自己のイメージや感情を広げ、思いや意図をもって創意工夫することと、自分の担当する声部と他の声部の役割を理解し、全体の響きとの関わりを理解して表現の工夫をしながら合わせて歌う能力を高めることをねらいとしている。

○生徒観

本学級の生徒は、男子23名、女子19名の学級である。合唱の授業では、パートリーダーを中心に協力する姿勢や、意欲的に学習に取り組む姿勢がみられる。以下のアンケートは9月上旬に3学年全員に実施したアンケートの結果である。

	あてあまる		肯定的	あてはまらない		否定的
	そう思う	やや		あまり	まったく	
①音楽の学習が好き	69%	26%	95%	4%	1%	5%
②歌うことが好き	56%	33%	89%	10%	1%	11%
③合唱することが好き	38%	37%	75%	22%	3%	25%
④合唱をするときに、歌詞の内容を味わっている	32%	49%	81%	16%	3%	19%
⑤歌詞（言葉）の発音や発声の仕方を工夫している	45%	42%	87%	12%	1%	13%
⑥歌うときに音符や休符の長さを意識して歌っている	53%	31%	84%	15%	1%	16%
⑦歌うときに音楽記号（強弱記号など）を意識している	48%	37%	85%	12%	3%	15%

この結果から、音楽の学習に対する意欲が高いことが分かる。しかし、歌を歌うことや合唱をすることでは、否定的な評価が多数見られる。

これらの実態から、合唱をする喜びを分かち合えるよう、ペアやグループ活動を取り入れたり、電子機器を使用し客観的に自分達の合唱を聴いたりしながら、生徒に音楽表現の変化を感じ取らせ

たい。また、歌詞の内容を味わいながら歌えるよう、ホワイトボードを有効活用し、友達の手や感じ方を共有し、歌詞の内容を深めていきたい。

○指導観

指導にあたっては、歌詞から伝わる思いや意図を汲み取り曲にふさわしい表現の工夫を行う力をつけたい。この力を身につけさせる過程として、情報収集の場面で、曲想を感じ取らせ、歌詞が持っているメッセージを理解する。整理・分析場面では、実際に歌いながらふさわしい表現の工夫を行うため、ボイスレコーダーやiPadを使用し、客観的に自分達の歌声を聴き、模範演奏に近づけられるよう、意見の交流や歌いながら表現の工夫を行う。その際、個人思考では、書く活動を取り入れ自分の思いや意図をもたせる。表現の工夫が個人の物だけにならないように、拡大楽譜を用意し、全体で表現の工夫を統一させる。

また、本題材で取り扱う曲は卒業・進路選択を控える生徒たちに、この曲を通じて、自分の未来を、歌で繋げながら、学年合唱をする意味について興味関心を高めていきたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	（話す） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまずきいている。	（やりとり1回） ○聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		（わかりやすく（伝える）） ○自分の考えや意見をわかりやすくまとめ、自分のことばで表現することができる。	（聴く） ○話の組み立て、構造を考えながら伝え、相手の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり2回） ○さらに深めた質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		（説得する） ○自分の考えや意見をわかりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	（やりとり3回以上） ○質問の後に自分の意見を述べ、内容を深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。

6 単元目標

- 歌詞の内容や曲想に関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。【音楽への意欲・関心・態度】
- 曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて理解し、思いや意図をもっている。【音楽表現の創意工夫】
- 全体の響きや各声部の役割、強弱の変化等を創意工夫して合わせて歌う技能を身につけている。【音楽表現の技能】

7 評価規準

音楽への意欲・関心・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・希望や勇気を与えてくれる歌詞と曲想を結びつけ、表現の工夫をして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	・歌詞の内容と曲想の違いを理解している。 ・曲想を感じ取り、音楽の構造を理解している。	・全体の響きや各声部の声などを聴きながら、役割を意識して歌うことができる。 ・ユニゾンと重なる所、追いかけて歌う所の声質や響きを変えて歌うことができる。

8 指導計画（全7時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点			評 価	
			関意	工夫	技能	評価規準	資質・能力（評価方法）
プロローグ（単元を貫く問い） 記憶に残る合唱にするためにはどうすれば良いだろう。							
課題の設定 情報収集	1	楽曲を聴き、楽曲の雰囲気と歌詞を理解する。 （1時間）【本時】	○			・希望や勇気を与えてくれる歌詞と曲想を結びつけ、表現の工夫をして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	【主体性】（行動観察・ワークシート）
整理・分析	2	強弱記号を意識しながらパート練習を行う。 （3時間）		○		・曲想を感じ取り、音楽の構造を理解している。	【主体性】（行動観察・ワークシート）
まとめ・創造・表現	3	記憶に残る合唱にするためには・・・歌詞の内容と曲想を結びつけ合唱を行う。 （2時間）		○		・歌詞の内容と曲想の違いを理解している。	【コミュニケーション能力】（行動観察・ワークシート）

実行・振り返り	4	パートの役割と楽曲の構成を理解して歌い方を工夫する。 (1時間)	○	・全体の響きや各声部の声などを聴きながら、役割を意識して歌うことができる。 ・ユニゾンと重なる所、追いかけて歌う所の声質や響きを変えて歌うことができる。	【表現力】(行動観察・ワークシート)
---------	---	-------------------------------------	---	---	--------------------

エピローグ (単元を貫く問いの解決)

一人一人が、曲想を感じ取り、歌詞の内容を理解することで、表現する内容が豊かになり、一体感のある合唱ができる。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・楽曲を聴き、楽曲の雰囲気と歌詞を理解する。

(2) 本時の評価規準

- ・歌詞の内容と曲想を理解している。【音楽表現の創意工夫】

(3) 準備物

- ・楽譜、ワークシート、TV、ホワイトボード、iPad

(4) 学習の流れ (1時間目/全7時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 [観点] ★資質・能力 (評価方法)
1 既習事項の確認。[10分]		
既習曲を歌う 模範演奏を聴く	◇ 聴いてくれている人を感動させるためにはどう歌えばよいだろう。	
予測される生徒の考え ・強弱記号も気を付けて歌う。・表情を柔らかくする ・歌詞の内容を理解する		
2 本時の課題を設定する。[3分]		
本時の目標の確認		
学習課題 記憶に残る合唱にするためにはどうすればよいだろう。		
	◇ 日比崎中学校の伝統として、最高学年の歌声を後輩に受け継ぐことを知らせる。また卒業を迎えるにあたって、中学校時代の友だちはかけがえのない存在だということも意識させる。	
3 ねらいを確認する。[2分]		

導入の工夫

単元を貫く問い

ワークシート

	◇ ねらいについて、生徒の思いを聴きながら提示する。	
ねらい 楽曲を聴き、楽曲の雰囲気と歌詞を理解する。		

4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[15分]

歌詞の内容について考える (グループ)	◇ 表現の工夫が行いやすいように、予め4人グループをつくり、グループワークを行わせる。 ◇ 考えさせる歌詞の内容を分かりやすくするために各グループにつき一つ考えさせる。 ◇ 歌詞の内容、言葉の発音に注目させ、ふさわしい表現を考えさせる。 ◇ ワークシートに表現の工夫を記入させる。 ◇ グループで練習をしながらふさわしい表現の工夫を確認する。 ◆ 歌詞と曲想を結び付けて考えるのが難しい場合は、強弱記号や音楽記号に注目させ考えさせる。	★コミュニケーション 【行動観察・ワークシート】 ・歌詞の内容と曲想を理解している。〔音楽表現の創意工夫〕【行動観察・ワークシート】
------------------------	--	--

5 課題解決について発表をする。[10分]

全体交流をし、表現の工夫を一つにまとめる	◇ 全体交流では、歌いながらふさわしい表現の工夫を考えさせる。 ◇ 黒板にホワイトボードを掲示し、歌で発表を行う。その発表に対し、よりふさわしい表現の工夫を他のグループから出してもらい、表現の工夫を深めさせる。 ◇ ふさわしい表現の工夫を行えたら、拡大楽譜に記入し、生徒の楽譜にも記入させる。	
----------------------	--	--



予測される生徒の考え

A評価 ・「証」には、それぞれの目標に向かい別々な道へ歩みだしていく内容を描いているので卒業、進路決定に向けて勇気を持って前に進んでいこうという思いを表すために、歌詞の意味を追求して歌う。

・「前を向きなよ」から「僕も歩みだす」で終わる歌詞なので自分が思う仲間や大切な人への想いを込めて歌う。

・一人ではない。常に自分の周りには必ず支えてくれる人がいてからこそこの今がある。中学校時代の親友は大人になってもかわらない。色んな場面で応援してくれている人がいることを感じて歌う。

B評価 ・「証」には、仲間を意識した歌詞が書かれている。

・冒頭の「前を向きなよ～」は失敗しても、躓いても自分の周りには支えてくれる仲間がいる感じがする。

・自分が思う仲間や大切な人への想いを込めて歌っていく。

6 学習のまとめをする。[5分]		
全体で主旋律を歌う。	◇ 表情や歌詞の内容について理解することで表現に変化が現れることを感じさせる。	
7 本時を振り返り,次時につなげる。[5分]		
○振り返りを書く。		
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容を理解することで、自然に声の大きさを変えながら表現することができた。 ・歌詞の内容と曲想が一致しており、理解することでとても歌いやすかった。 ・歌詞の内容を理解すると表現が違って聴こえて驚いた。 </div>		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	歌詞の内容と曲想を繋げて考えることができた。
B（合格）	歌詞の内容を考えることができた。
C（乗り越えさせたい実態）	歌詞の内容を考えることができなかった。

（5）板書計画

<p>単元 合唱</p> <p>学習課題</p> <p>記憶に残る合唱にするためにはどうすればよ いだろう。</p> <p>ねらい</p> <p>楽曲を聴き，楽曲の雰 囲気と歌詞を理解す る。</p>	<p>拡大歌詞</p>	<p>生徒の予想解答</p> <ul style="list-style-type: none"> ○後ろを向かず前を向いてい く気持ちをもって歌う ○大切な人への想いを込める ○支えてくれる人がいること を実感して歌う。 ○傷つけあったり許しあつた りできるのは友だちの証だと 感じながら歌う
---	-------------	---

HIBIZAKI SURVIVAL PROJECTS

～美術編～

本題材で育成する資質・能力

(教科) 思考力・判断力, (学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和2年9月18日(金) 13:00～13:50
- 2 学年 第2学年1組 (男子16名 女子16名 合計32名)
- 3 場所 新館2F 2年1組教室
- 4 題材について

○ 教材観

本題材は、本校が今年度総合的な学習の時間で取り組んでいる「HIBIZAKI SURVIVAL PROJECTS～みんなで何が何でも生き伸びろ！！～」と関連して行う。HIBIZAKI SURVIVAL PROJECTSとは、南海トラフ巨大地震についての知識を深め、災害が発生した際に自分たちはどうすればよいのか探っていくプロジェクトである。全校生徒が協力し、最終的には本校に避難所を開設する時どのようにするのか考えるところまで行う。

本題材では、避難所で使用する案内標示の制作を通して、使う人の立場に立って、分かりやすさと美しさの調和を考える発想や構想に関する能力を育む。避難所にはさまざまな年齢・性別・国・心身の状態の人々が集まると想定される。誰にとっても見やすく分かりやすい案内標示を制作し、実際に市内の避難所開設に役立ててもらうべく、尾道市の防災課へ提案する。内閣府防災担当が発表している「避難所運営ガイドライン」には、「被災者の健康を維持するために避難所の質の向上を目指す」と示されている。生活の中で光る美術の力を生徒たちが実感できる取り組みとしたい。

○ 生徒観

本学級の生徒は、アンケートで次のように答えている。

美術の授業に満足しています。	肯定的回答100%
授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	肯定的回答67%
授業では、友だちと話合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	肯定的回答93%

以上の結果から、美術に対する意欲が非常に高い。表現活動・鑑賞の活動ともに積極的である。しかし、自分の考えを伝えることに、やや消極的な面を持っている。個人での活動に比べて班活動では、意見を交流することができており、話し合い活動も活発である。

本題材では、使用する人の立場や状況をイメージし、ヒントを基にしてベストなデザインを導き出す活動を行う。少人数班での話し合いや、昨年度より特別活動に於いて継続して行っている学級全体での話し合いからデザインを決定していく活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできることを期待している。

○ 指導観

指導に当たっては、視覚伝達デザインが生活にもたらす伝達の効果と心への影響について気づかせていく。第1学年での既習事項である色相環やトーンを使って状況に相応しい色を選択したり、さまざまな角度から物事を見てデザインを決定したりする活動を通して、視覚伝達デザインには必ずそれを受け取る相手が存在することを意識させる。生活や社会の中にあるデザインには、目的や機能との調和がとれた美しさがあることも実感させていく。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で (ミニホワイトボード等を使用して)	(話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		(話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 題材の目標

- 案内標示の制作を通して、使う人の立場に立ち、分かりやすさと美しさの調和を考えられる。

7 評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・案内標示の作成を通して、視覚伝達デザインの役割について理解しようとする。	・適切な大きさや色、デザインを考え、誰にとっても分かりやすい案内標示の構想を練ることができる。	・形や色彩が感情にもたらす効果を理解しながら、美しく分かりやすいデザインをつくりだすことができる。	・美術が生活や社会にもたらす働きについて理解や見方を深めている。

8 指導計画（全4時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評 価	
			関意	発想	技能	鑑賞	評価規準	資質・能力（評価方法）
課題の設定	1	ベストな大きさと色を考えよう。 （1時間）	○	◎			・視覚伝達デザインの役割について理解しようとする。 ・適切な大きさや色を考え、誰にとっても分かりやすい案内標示の構想を練ることができる。	【主体性】（ワークシート） 【コミュニケーション能力】（話し合い） 【思考力・判断力】（ワークシート）
単元を貫く問い（探求課題の萌芽） 日比中が避難所に！みんなの助けになるベストな案内表示をつくりだせ！								
情報収集・整理・分析	2	ベストなデザインを考えよう。 （1時間） 【本時1／1】		○		○	・適切なデザインを考え、誰にとっても分かりやすい案内標示の構想を練ることができる。 ・形が感情にもたらす効果を理解しながら、美しく分かりやすいデザインをつくりだすことができる。	【表現力】（ワークシート、作品） 【コミュニケーション能力】（話し合い） 【思考力・判断力】（ワークシート）
	3	よりよいデザインを求めてクラスで話し合おう。 （1時間）				○	・美術が生活や社会にもたらす働きについて理解や見方を深めている。	【コミュニケーション能力】（話し合い）
まとめ・振り返り	4	PCで案内標示をつくらう。 （1時間）	○		○	○	・案内標示の制作を通して、美しく分かりやすいデザインをつくりだすことができる。	【表現力】（作品）
単元を貫く問いの終結 相手の状況を常にイメージすることで、みんなに伝わるデザインをつくることができる。								

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○みんなの助けになる案内標示のデザインを考えられる。(発想や構想の能力)

(2) 本時の評価規準

- ・案内標示の作成を通して、視覚伝達デザインの役割について理解しようとする。(美術への関心・意欲・態度)
- ・誰にとっても分かりやすい案内標示のデザインの構想を練ることができる。(発想や構想の能力)

(3) 準備物

- ・テレビモニター，PC
- ・ワークシート
- ・ホワイトボード（少人数班用×8枚，教師用×1枚）
- ・さまざまな形に切った画用紙
- ・マスキングテープ

(4) 学習の流れ (2時間目/全4時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力(評価方法)
1 既習事項の確認 [2分]		
導入の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の授業を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 前回決定した案内標示の大きさと色を確認する。避難所を利用する人のことを想像させる。(年齢・性別・国・心身の状態) ◇ 前回予告した通り、今回は案内標示のデザインを考えると伝える。 ◇ ワークシートを配布する。 	
2 導入 [10分]		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 何の案内標示か当てる。 ・ ピクトグラムに共通する特徴を考え、ワークシートに記入する。 ・ 意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ テレビモニターを使って、クイズ「何をあらわしているでしょう？」を2問行う。 ◇ これらの案内標示は「ピクトグラム」と呼ばれていることを伝える。 ◇ クイズ以外にいくつかのピクトグラムを見せ、共通点を考えさせる。 ◆ 形に注目するよう伝える。 ◇ なぜその共通点があるのか考えさせる。 ◇ 意見を板書しておく。 	
3 本時の課題を設定する。[7分]		
日比中が避難所に！みんなの助けになるベストな案内表示をつくりだせ！		
単元を貫く問い 【学習課題】 みんなの助けになる案内標示のデザインを考えよう。		
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 生徒が発表した「ピクトグラムに共通すること」を条件として学習課題を進める。 		
4 ねらいを確認する。[1分]		
【ねらい】 誰にとっても分かりやすい案内標示の構想を練ることができる。		
5 情報を整理・分析し、課題解決をする。[15分]		
ワークシート初化の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに自分が担当するピクトグラムのアイデアスケッチをする。 ・ 個人で考えたものを基に、少人数班で交流しながら、考えをまとめる。 ・ ホワイトボードを黒板に掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ クラスで4つのピクトグラム(受付・ごはん・飲み水・ゴミ捨て場)を作ることを伝える。(少人数班は8班) ◇ 今日作ったデザインを基にPCでピクトグラムを仕上げることを伝える。 ◇ 思考セットを配布する。 ◇ ホワイトボードをキャンバスとして、画用紙やヒモを使い、単純化して考えさせる。 ◇ 実際に例を作ってみせる。 ◆ 積み木のように形を組み合わせてみるよう伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚伝達デザインの役割について理解しようとする。〔美術への関心・意欲・態度〕 ・ 適切な大きさや色を考え、誰にとっても分かりやすい案内標示の構想を練ることができる。〔発想や構想の能力〕 ★ 主体性(ワークシート) ★ コミュニケーション能力(話し合い) ★ 思考力・判断力(ワークシート)



6 課題解決について発表をする。[10分]		
<p>・班ごとに「どういう考えで」「何を」現しているか発表する。</p> <p>・他の班の意見を聞いてワークシートのチェック欄に記入する。</p>	<p>◇条件にしている「ピクトグラムに共通すること」が当てはまるか考えさせる。</p> <p>◆どの年齢・性別・国・心身の状態の人が見ても分かるピクトグラムになっているか考えさせる。</p>	
<p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価 ごはんを現す器を、どの国の人でも分かるようなデザインにしました。また、箸をデザインしようとする単純な2本線になってしまい分かりにくいので、フォークとナイフを配置しました。</p> <p>B評価 避難所ではおにぎりが配布されることが多いので三角にしました。おにぎりだとわかりやすくするために、真ん中に梅干しをイメージした丸をいれました。</p>		
<p>・質問や意見を発表する。</p>	<p>◇選んだ理由を整理できるよう振り返る。</p>	
7 本時を振り返り、次時につなげる。[5分]		
<p>○振り返りを書く。</p>	<p>◇次回、クラスの話合いで案内標示のデザインを決定することをアナウンスする。</p>	
<p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none">・シンプルな形の組み合わせで作ったピクトグラムは、遠くからでもひと目で何を現しているか分かりやすく、いろいろな状況の人に伝わりやすいと思った。・自分が最初に考えたデザインは、日本文化を知っている人にしか分からないので、観光などで来ている外国の人にも伝わるようなデザインを考えた。		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	避難所を利用する人々のことを想像し、相手の立場に立ってピクトグラムをデザインできる。また、視覚伝達機能と美しさを兼ね備えたデザインを意識することができる。
B（合格）	避難所を利用する人々のことを想像し、相手の立場に立ってピクトグラムをデザインできる。
C（乗り越えさせたい実態）	相手の立場に立ってデザインを考える必要があるとわかる。

(5) 板書計画

題材名	HIBIZAKI SURVIVAL PROJECTS ～美術編～	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード
学習課題	みんなの助けになる ベストな案内標示をつくりだせ！	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード
ねらい	誰にとっても分かりやすい 案内標示の構想を練ることができる。				

「世界の諸地域 アフリカ州」 甘いチョコレート 苦い現実 ～資源が豊富なのに、なぜアフリカの人々は貧しいのだろうか～

本単元で育成する資質・能力

表現力，コミュニケーション能力，主体性

- 1 日時 令和2年9月18日 13:00～13:50
- 2 学年 第1学年3組 (男子14名 女子17名 合計31名)
- 3 場所 新館1F 1年3組教室
- 4 単元について

○ 単元観

本単元は、中学校指導要領 地理的分野(1)世界の様々な地域(ウ)世界の諸地域「世界の諸地域について、以下の(ア)から(カ)の各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させる。(ア)アジア(イ)ヨーロッパ(ウ)アフリカ(エ)北アメリカ(オ)南アメリカ(カ)オセアニア」を受けて設定されている。

この単元は、アフリカ州の自然環境、文化と歴史、産業と経済を支える輸出品などについて学ぶ中で、「アフリカ諸国の主要生産品、主要国の経済状況と生産物、貿易の様子、主要生産品とアフリカに暮らす人々の生活との関連、旧宗主国など先進国との結び付きなどを追究する」ことにより、「アフリカの脆弱な経済基盤とその理由を明らかに」し、アフリカ州の地域的特色を理解させる構成となっている。

○ 生徒観

本学級の生徒は、小学校第6学年「世界の未来と日本の役割」の小単元において、アフリカ州の国々の中には紛争や貧しさが原因で困っている人がたくさんいることを学習している。中学校では「地球の姿」の単元において、アフリカ諸国の国境が、緯線・経線を利用して国境線を引いたため、直線的になっていることなどを学習している。

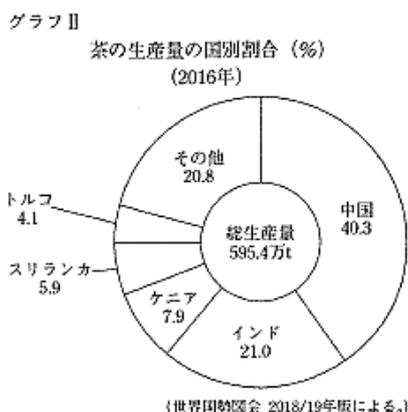
また、事前に実施したアンケートでは、日本の中学生がなぜアフリカ州のことを学ばなければならないのかという質問に対して、「世界の各地について学び交流を深めるため」や「互いの文化を理解しあうことが大切だから」、「受検の時に必要だから」など、何かしら学ぶ必要性を感じてはいる。

しかし、実際に生徒がアフリカ州に対して持っているイメージは、「ジャングルが多い、緑が多く自然が豊か」や「砂漠がたくさんありそうで、あまり水がなさそう」、「動物と人間がいっぱいいる」、「あまり豊かではなく、困っている人が多いようなイメージを持っている」、「少し怖い。治安が悪そう」などと、決してイメージ豊かではない。さらに言えば、アフリカ州は日本から遠く、中学1年生にとって身近な地域とはいいいがたいと考えられる。

事前に挑戦したアフリカ州の地域的特色を理解して解答する「令和2年度 広島県公立高校入試問題」の正答率は31%であった。誤答率が31%、無答率も31%であり、学習の前段階として、アフリカ州の地域的特色についてはあまり理解していない生徒が多いといえる。

令和2年度 広島県公立高校入試問題

- 4 次郎さんは、世界の茶の生産と消費のかかわりについて興味をもち、世界の茶の消費量を上位5か国まで調べ、次の表Ⅲを作成しました。次郎さんはグラフⅡと表Ⅲを見て、ケニアは、茶の生産量は3位で多いが、消費量が5位までに入っていないことに疑問をもちました。ケニアは、茶の生産量は多いのに、消費量が少ないのはなぜだと考えられますか。その理由を、「商品作物」の語を用い、ケニアの経済の特徴に触れて簡潔に書きなさい。



表Ⅲ
茶の消費量 (2014～2016年の平均値)

順位	国	消費量 (万 t)
1	中国	179.1
2	インド	94.7
3	ロシア	25.7
4	トルコ	24.7
5	アメリカ	13.0

(静岡県茶業の現状、データブック オブ・ザ・ワールド) 2019年版による。

問題番号	正 答 [例]	採点上の注意	配点
4	商品作物の輸出による収入に頼る経済となっているため。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	3

○ 指導観

指導に当たっては、単元の導入部においてICT等を活用し、意外にアフリカ州との関連が身近なものに多いことなど、生徒の既存の知識とのギャップを生み出しながら、「資源が豊富なのに、なぜアフリカの人々は貧しいのだろうか」という単元を貫く問いを設定する。生徒の中に「なぜだろう」「答えが知りたい」という、強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定を行い、単元を通して生徒が学びたい、解決したいと思えるように意欲付けることで、生徒の「主体性」を伸ばしたい。そして、単元を貫く問いの背景や要因を追究する活動を通して、アフリカ州の地域的特色を理解する力を育てたい。

本時の指導では、設定した単元を貫く問いに対して、複数の資料を読み取り、情報を集め考察する場面を設ける（個人思考）。原因をランキング形式でまとめることで、思考を整理することができ、その生徒なりのアフリカ州が持つ貧しさに対するイメージが捉えられると考える。

その後、少人数班で、読み取った情報を根拠に、単元を貫く問いに対する仮説（生徒なりの予想）を立てさせる（話し合い活動）。複数の資料を関連付けながら、根拠を明確にして述べることで、本校が目指している「コミュニケーション能力」「表現力」の育成を図る。

出された仮説について、自分たちと同じ意見を見つけたり、異なる意見や疑問に思ったことに対して質問するなどの話し合い活動（全体討議）を通して、それぞれの意見に対する理解を深めさせる。話し合い活動後、改めての自分の考えを整理させる（一次判断）とともに、今後の学習に対する見通しを持たせる。

そして、単元を通して学習を重ね、最終的には、理解した地理的事象を再構成し説明する活動を通して、具体的な根拠を示しながら、アフリカ州の地域的特色の背景や要因の関連を解釈し、表現することができるようにしたいと考える（二次判断）。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	授業の展開の場面で (ミニホワイトボード等を使用して)	表現力・コミュニケーション能力			主体性
レベル1		(話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		(話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

○ アフリカ州の地域的特色を理解し、「資源が豊富なのに、なぜアフリカの人々は貧しいのだろうか？」という問いに対して、自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。

7 評価規準

社会事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的な事象についての知識・理解
アフリカ州の地域的特色や「資源が豊富なのに、なぜアフリカの人々は貧しいのだろうか？」という問いについて、意欲的に追究し、捉えようとしている。	アフリカ州の産業が特定の生産品に頼っているという地域的特色について多面的・多角的に考察をし、その過程や結果を適切に自分の言葉で表現している。	アフリカ州の地域的特色に関する資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	アフリカ州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

8 指導計画（全9時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評 価	
			関意	思考	技能	知理	評価規準	資質・能力（評価方法）
課題の設定	1	アフリカ州に対する考えを深めよう （1時間） 【本時1／1】	◎		○		アフリカ州の地域的特色や「資源が豊富なのに、なぜアフリカの人々は貧しいのだろうか」という問いについて、意欲的に追究し、捉えようとしている。 アフリカ州の地域的特色に関する資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	【表現力】 【コミュニケーション能力】 （話し合い活動・発表） 【主体性】 （ワークシート） （授業への取組）
	単元を貫く問い（探究課題の萌芽） 資源が豊富なのに、なぜアフリカの人々は貧しいのだろうか？							
情報収集・整理・分析	2	アフリカ州の自然環境 （2時間）				◎	南北に長く面積の広いアフリカ州では、赤道からの距離によって多様な気候が見られることを理解できる。	【主体性】 （ワークシート） （授業への取組）
	3	アフリカの文化と歴史 （1時間）			◎		さまざまな資料を活用し、ヨーロッパとのつながりが現在も残っていることを読み取ることができる。	【主体性】 （ワークシート） （授業への取組）
	4	アフリカの産業と経済を支える輸出品 （2時間）		◎			アフリカ州でモノカルチャー経済が多く見られる理由やその問題点について整理し、適切に表現することができる。	【表現力】 【コミュニケーション能力】 （話し合い活動・発表） 【主体性】 （ワークシート） （授業への取組）
	5	自立をめざすアフリカの国々 （1時間）				◎	自立に向けたアフリカの自国の取り組みや他国からの支援の実態を理解し、その知識を身につけている。	【主体性】 （ワークシート） （授業への取組）
まとめ・振り返り	6	学習をふりかえろう （2時間）		◎			単元を貫く問いに対して、話し合い活動を行い、自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、論理的に表現することができる。	【表現力】 【コミュニケーション能力】 （話し合い活動・発表） 【主体性】 （ワークシート） （授業への取組）
単元を貫く問いの終結 アフリカでは、植民地支配の歴史を未だに払拭できずに、その足かせに苦しんでいる人々がいる。そして、アフリカで作られているモノカルチャーによる製品を、日本も含めた世界中の国々が輸入している。自分たちの生活と、アフリカの人々の生活が実は密接に関わり合っているのである。アフリカの豊富な資源によって支えられている日本にとっても、アフリカの課題をしっかりと把握し、アフリカの発展のために力をつくすことは、アフリカのみならず日本の発展にとっても必要不可欠なのである。								

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- 「資源が豊富なのに、なぜアフリカの人々は貧しいのだろうか？」という問いに対して、その背景や要因について、資料を根拠に、仮説を立てることができる。

(2) 本時の評価規準

アフリカ州の地域的特色や「資源が豊富なのに、なぜアフリカの人々は貧しいのだろうか」という問いについて、意欲的に追究し、捉えようとしている。【社会的事象への関心・意欲・態度】
アフリカ州の地域的特色に関する資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。【資料活用の技能】

(3) 準備物

- ・教科書，P C，T V，ワークシート，資料，掲示物，ミニホワイトボード×8

(4) 学習の流れ（1時間目／全9時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて）	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 本時のねらいを確認する。〔2分〕		
本時のねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ねらい アフリカ州に対する考えを深めよう </div>	◇新しい単元に入ることを確認する。 ◇事前アンケートを使って、「なぜ私たち日本の中学生がアフリカ州のことを学ぶ必要があるの？」と考えさせる。 ◆事前アンケートを確認し、生徒の実態把握をしておく。	
2 単元を貫く問い、本時の学習課題を設定する。〔8分〕		
本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学習課題 資源が豊富なのに、なぜアフリカの人々は貧しいのだろうか？ ～その原因について、資料を根拠に、仮説を立てよう～ </div>	◇動画を使って、アフリカの風景を視覚的にイメージしやすくさせる。 ◇グラフを使って、世界の中のアフリカ州の位置づけを確認させる。 ◇身近なものの中にある日本とアフリカとのつながりを意識させる。 ◇既習事項（西アジアでは、資源を生かして経済発展している）を使って、アフリカの現状とのギャップを捉えさせる。 ◆ICT等を活用し、生徒が主体的に活動できるよう、「解決したい」或いは「達成したい」学習課題を設定するようになる。	

導入の工夫

単元を貫く問い

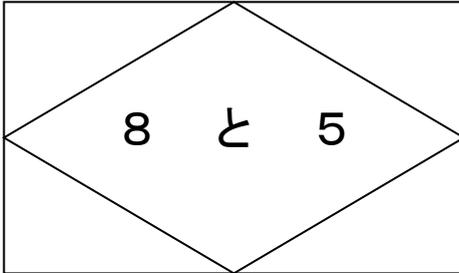
3 情報を整理・分析し、課題解決をする。[20分(個人8分, グループ12分)]

<p>資料の説明を聞く。 資料に何が書いてあるか読み取り、仮説を立てるために必要な情報を集め、考えをまとめる。【個人思考】</p> <p>個人で考えたことをもとに、各班で課題解決のための仮説を立てる。【話し合い活動】</p>	<p>◇資料を活用することで、意見に根拠を持たせる。 ◇8つの資料から、アフリカの人々が貧しい理由について、より重要な原因を2つ選び、その組み合わせを選んだ理由を考えさせる。 ◆生徒が資料の意味を理解していないものについては、随時解説を加える。 ◇ホワイトボードに意見をまとめさせていく。 ◇8つの資料の中で、より重要な原因は何かを決定させる。 ◆他人と意見交流をすることで、自分の考えと比較し、理解を深めさせる。</p>	<p>アフリカ州の地域的特色に関する資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 〔資料活用の技能〕 (ワークシート) ★【表現力】 【コミュニケーション能力】 (話し合い活動・発表)</p>
--	---	--

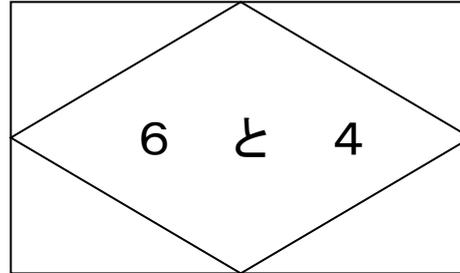
小グループの活用

予測される生徒の考え

A評価



B評価



思考を深める話し合い

4 課題解決について思考を深める学び合いの場を設定する。[12分]

<p>掲示されたミニホワイトボードについて、書かれた理由に対する意見交流を行い、考えを深める。【話し合い活動(全体討議)】</p>	<p>◇自分達の班と同じ意見を見つけたり、異なる意見や疑問に思ったことに対して質問するなど、ホワイトボードに書いてあることに対して、理解を深めさせる。 ◆一方的な意見の言い合いにならないようにさせる。</p>	
---	--	--

5 本時をまとめ、ふり返り、次時につなげる。[[8分]

<p>○まとめを書く。【個人思考】 ○ふり返りを書く。</p>	<p>◇8つの資料の中で、より重要な原因は何かを改めて個人で考えさせる。本時の最初に考えたことから、変化を見取る。 ◇本時をふり返り、発表(予想)された仮説を、さらに単元を通して追究していくことに触れ、次時につなげる。</p>	<p>アフリカ州の地域的特色や「資源が豊富なのに、なぜアフリカの人々は貧しいのだろうか」という問いについて、意欲的に追究し、捉えようとしている。 〔社会事象への関心・意欲・態度〕 (ワークシート) ★【主体性】 (ワークシート・授業への取組)</p>
-------------------------------------	---	---

生徒の振り返りの例

・アフリカの人々が貧しい理由について資料から仮説を立てることができた。色々意見を聞いて、自分の考え方が最初とは変わった。本当の原因が何か知りたいし、アフリカ州の勉強も頑張りたい。

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	資料をつなげて、合理的根拠に基づき、その背景や要因を説明しながら、アフリカ州の地域的特色への自分なりの考えを構築できている。
B（合格）	資料をつなげて、合理的根拠に基づいて推理し、仮説を立てて説明しようとしている。
C（乗り越えさせたい実態）	主題となるアフリカ州に素朴な関心や疑問を持っているが、資料の読み取りができず、仮説を立てられていない。

(5) 板書計画

	単元名	ねらい アフリカ州に対する考えを深めよう		
	世界の諸地域 アフリカ州	学習課題	資源が豊富なのに、なぜアフリカの人々は貧しいのだろうか？ ～その原因について、資料を根拠に、仮説を立てよう～	
		6 と 7	6 と 4	8 と 5
		1 と 4	1 と 8	4 と 3
		1 と 2	4 と 6	

授業当日

⇒ 単元終了後

まとめ（本時の学習課題に対する答えを自分なりの改めて整理してみよう）

アフリカの人々が貧しいことへの影響度ランキング

1	6	2	7		
3	7	4	4	5	1
6	5	7	2		
8	5				

影響度
↑
高
↓
低

最終的にこの2つの資料を選んだ理由
小さいがその理由は、飲み物や食べ物不足が関係しているかもしれないと思、たから

ふりかえり（授業で自分が成長した所、授業の感想、疑問点など）

自己評価 当てはまる所を○ ◎ とてもよく分かった、3: だいたい分かった、2: あまり分からなかった、1: 分からなかった

日本の生産は当然前（池田）という事が分かった。安全な土地がある割合は日本はほとんど100%だがアフリカ州は70%なのでという事にも気づきました。食べ物不足に気づけました。

まとめ（アフリカの学習課題に対する答えを自分なりの改めて整理してみよう）

アフリカの人々が貧しいことへの影響度ランキング

1	8	2	5		
3	1	4	7	5	6
6	4	7	3		
8	2				

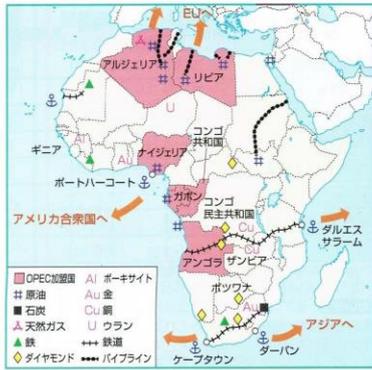
影響度
↑
高
↓
低

最終的にこの2つの資料を選んだ理由
5は昔植民地に入っていた影響が主にコロムビアの国が踏かれていますから、だからそれは1カ国で済んでいるのが課題だから。

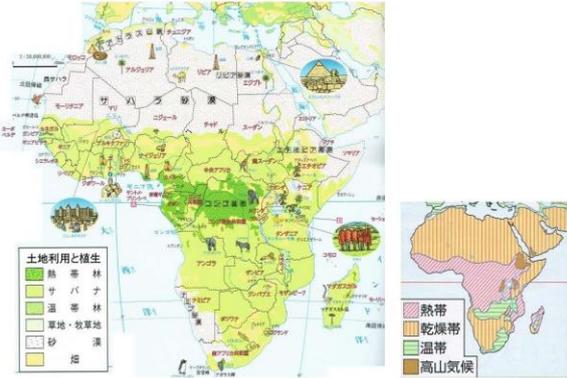
ふりかえり（授業で自分が成長した所、授業の感想、疑問点など）

自己評価 当てはまる所を○ ◎ とてもよく分かった、3: だいたい分かった、2: あまり分からなかった、1: 分からなかった

1番初めにアフリカについて授業をした時に考えた資料を初選したうえで考えてみた。その初め授業と授業内容が真実にならないう。下の順位は下物が1位、2位にたのに自分でも気づきました。理由も初めのころより、くわしく関係性にかけたので良かったです。



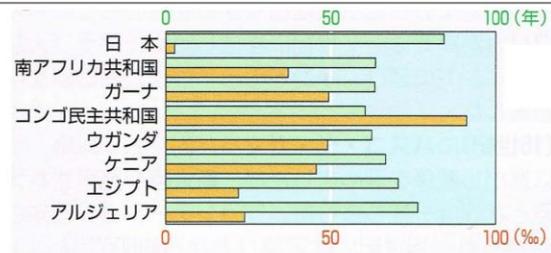
資料1 鉱産資源の分布



資料2 アフリカ州の自然

国	就学率(%)	
	男	女
マリ	59	52
ジブチ	61	54
エチオピア	89	82
ケニア	83	87
アメリカ	93	94
イギリス	100	100

(UNICEF 世界子供白書)



(上めもり) 平均寿命(2016)

(下めもり) 5歳未満児の死亡率(2017)

(1,000人のうち5歳未満で死亡する人数)

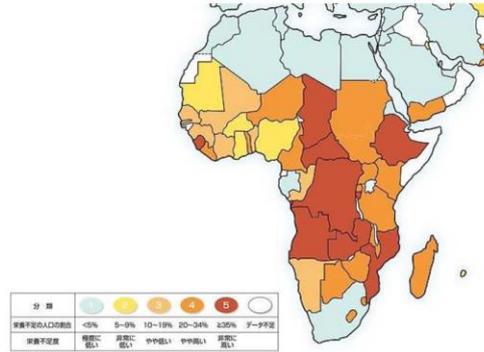
(WHO資料による)

資料3 アフリカと世界のおもな国の初等教育(小学校)就学率(2011~16年)

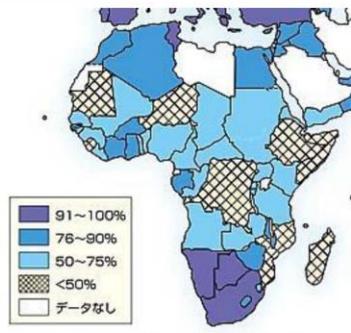
資料4 アフリカ諸国の平均寿命と乳児死亡率



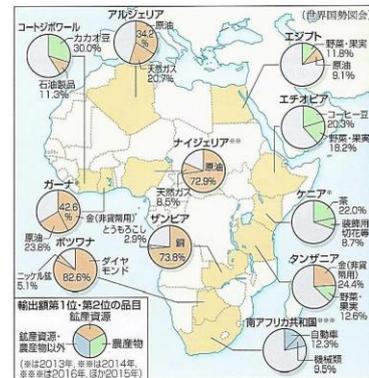
資料5 アフリカの言語分布



資料6 栄養不足度



資料7 安全な水が使用できる割合



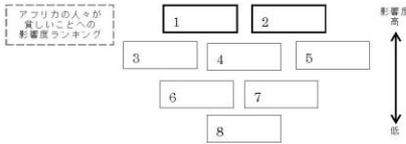
資料8 おもな国の輸出品

表

No. (令和2年度)
 単元名「世界の諸地域 アフリカ州」 1年 組 番 名前 ()
 本時のねらい アフリカ州に対する考えを深めよう
 学習課題 資源が豊富なのに、なぜアフリカの人々は貧しいのだろうか？
 ～その原因について、資料を根拠に、仮説を立てよう～

話し合いMEMO

1) 個人で考えよう



2) 個人で考えたことをもとに、各班で課題解決のための仮説を立てよう

と

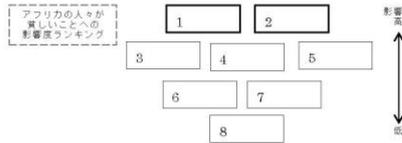
と

と

と

この2つの資料を選んだ理由

まとめ (本時の学習課題に対する答えを自分なりの改めて整理してみよう)



最終的にこの2つの資料を選んだ理由

ふりかえり (授業で自分が成長した所、授業の感想、疑問点など)

自己評価 当てはまる所に○: 4:とてもよく分かった, 3:だいたい分かった, 2:あまり分らなかった, 1:分らなかった

裏

たご焼き 	携帯電話 	蚊取り線香 	チョコレート (カカオ) 	桃のジャム 	化粧品 
ゴマ 	電気 	イセエビ 	ダイヤモンド 	プラチナの指輪 	コーヒー 
スシ (マグロ) 	バラの花 	ガソリン 	パニラアイス 	うなぎ 	ゲーム機 

たご焼き 日本で消費されるタコの約60%が産地アフリカから産出しています。全モザンビークやモザンビークから輸入されています。	携帯電話 携帯電話などの精密機器にはレアメタルが広く使われています。レアメタルの多くはアフリカから産出されています。	蚊取り線香 蚊取り線香に使われている殺虫剤はケニアやタンザニアなどの東アフリカから輸入されています。	チョコレート (カカオ) チョコレートの原料であるカカオ豆の約70%は西アフリカに産出するガーナから輸入されています。他にもコートジボワール、ナイジェリアなどから輸入されています。	桃のジャム 南アフリカ共和国から産出される桃のジャムは輸入額の約10%を占めています。他にエジプトなどからもジャムが輸入されています。	化粧品 化粧品には鉱物資源を出すためにアフリカ産が使われています。アラビアゴムの産地は、スーダン、チャド、マリ、セネガルなどが挙げられます。
ゴマ ゴマはアフリカの原産地とされており、多くの国で生産されています。アフリカの国々から日本に輸入されています。	電気 日本は天然ガスをナイジェリアやエジプトから輸入しており、それらは電力発電の原料として使われています。	イセエビ 南アフリカ共和国 (輸入額の10.4%) やナミビア (輸入額の9.6%) からイセエビを輸入しています。	ダイヤモンド アフリカの産地はダイヤモンドの一大産出地であり、ボツワナ、コンゴ民主共和国、南アフリカ共和国などが有名です。	プラチナの指輪 貴金属産地として知られている南アフリカの約70%を南アフリカから輸入しています。他に産出地としてジンバブエなどが挙げられます。	コーヒー アフリカのコーヒー生産国としては、タンザニアやモザンビーク、ケニアが知られており、日本ではモカやキリマンジャロといった名前が売られています。
スシ (マグロ) 青魚や紅魚で使われているクロマグロは、北アフリカ (エジプト) やアルジェリア、チュニジア) から輸入されています。	バラの花 日本はケニアやエジプトからバラを輸入しています。ケニア産のバラは輸入量の約20%を占めています。	ガソリン 日本は中東だけでなく、スーダンやチャドなどアフリカからも石油を輸入しています。	パニラアイス パニラの原料となるパニラ豆の約90%以上がマダガスカルから輸入されています。他にウガンダやセーシェルなどからも輸入されています。	うなぎ 近年、日本近海でウナギの産卵数の減少が続いており、2012年にマダガスカルからアフリカ産ウナギの産卵の輸入が開始されています。	ゲーム機 ゲーム機などにはタンタルというレアメタルが使われています。アフリカではエチオピア、ルワンダ、モザンビーク、コンゴ民主共和国などがタンタルの産出地です。

出典: JICA「日本-途上国 相互依存関係」
 財源: 「貿易統計」
 編集: 「貿易統計」(日本とアフリカ)

「 関東地方 」 東京オリンピックを成功させよう ～ オリンピックを支える東京大都市圏の機能を説明する ～

本単元で育成する資質・能力

(学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日 時 令和2年9月18日 13:00～13:50
- 2 学 年 第2学年3組 (男子15名 女子16名 合計31名)
- 3 場 所 新館3F 2年3組教室
- 4 単元について

○ 教材観

本単元は、中学校学習指導要領社会科地理的分野の内容C(3)日本の諸地域において、「人口や都市・村落を中核とした考察」を基にして、次のような力を身につけさせるために設定される。

知識・理解については、①地域的特色や地域の課題を理解する、②単元で設定した考察を用いて取り上げた事象と、それに関連する他の事象、そこで生ずる課題を理解することである。

思考力・判断力・表現力等については、③単元で設定した考察を用いて扱う事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象や生ずる課題と関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現することである。

関東地方は首都東京を中心にして、日本の政治・経済・文化のあらゆる中枢を担い、東京大都市圏を形成している。一方で関東地方の周辺部には過疎化の進んでいる地域も多く、都市機能の一極集中を招いている。また、交通網の発達により関東地方と他の国や地域とが結びつき、多くの人を呼び込んでいる地域でもある。本単元は関東地方の自然環境や、歴史的背景、産業分布、都市の機能等に関心を持たせることで、そこから生ずる諸事象や諸課題を「人口と都市」という視点で追究する単元になっている。

○ 生徒観

本学級の生徒は、積極的に授業に参加しようとする生徒が比較的多い。その生徒はやや固定化する傾向にあるが、前時の復習や、既習内容を意識させ、キーワードに気付かせると積極的に発表する。事前に行った社会科の授業に対するアンケートのうち、「社会科の授業が好きです」が82%の生徒が肯定的に回答している。また「社会科の授業は私たちの実生活に役立つと思います」と回答した生徒は全体の83%にのぼることから、授業で得た知識や考えた思考の流れを、生徒は実際の生活に活かそうとしていると考えることができる。

生徒が課題を見出し、本時のねらいに迫るために、各種資料から思考を深める工夫が必要である。提示されたものから特徴を読み取る作業について、アンケートの「図や写真、資料から特徴を読み取ることが得意です」に58%の生徒が肯定的な回答をしているが、これら生徒の気付きのほとんどは単純で一面的な視点のものも多い。そのため、意図的指名によって他の生徒の考えを共有したり、細やかな気付きを重ねさせたりすることで多様な意見を交流する必要があると考える。

【事前アンケートの結果(2年3組)】

ア 社会科の授業が好きです。	82%
イ 社会科の授業は私たちの実生活に役立つと思います。	83%
ウ 図や写真、資料から特徴を読み取ることが得意です。	58%
エ いくつかのキーワードを整理して、自分の考えにまとめることができます。	55%

オ	自分の中で疑問に思ったことや、興味を持ったことを進んで調べます。	60%
カ	自分の意見を班の人や、クラスに発表することができます。	59%

○ 指導観

指導するにあたって、単元を考察するテーマである「人口と都市」を意識しながら、生徒にとって主体的な学びになるような授業にしたい。とりわけ単元の導入にあたる第一時においては、生徒の興味を引きつけるような映像や資料を準備して、学習を進めていく。

単元を貫く問いとして、開催延期となった東京オリンピック・パラリンピックを題材に、「オリンピックを無事に開催し、成功させるためのポイント」について考えさせる。あらゆる機能の中核となっている首都東京。東京オリンピック 2020 大会は、1964 年開催の東京オリンピックの会場を活用しながら、33 競技のうち 28 競技を東京に集中させてコンパクトに行われる。それを可能にするものは選手村を中心にした臨海部と都内に張り巡らされた交通網。オリンピック期間中の来場者予測数は延べ数でおよそ 1000 万人をこえると見込まれている。今大会を開催するにあたって、競技場の新設や、ベイエリアの再開発、環境技術の向上、宣伝広告等の東京の産業界を総動員して準備がされてきた。都市に集中する機能が何であるか、どんな変化を辿ってきたか、近隣の地域と産業や人々がどのように結びついて大会が支えられているかを学び、単元の最終目標として、オリンピックを成功させるポイントが何であるかを学習した内容から説明できるようにしたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度
	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード）	表現力・コミュニケーション能力		
レベル1		（話す speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問することができる。
レベル2	（話す tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。

レベル3	<p>(話す talk)</p> <p>○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。</p>	<p>(訊く)</p> <p>○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。</p>	<p>(やりとり)</p> <p>○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。</p>	<p>○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。</p>
レベル4	<p>自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。</p>			

6 単元目標

- 人口や都市に注目して関東地方の特色を追究するという学習をふまえて、東京大都市圏への人口の集中によって、産業面での地域的特色がどのように変化してきたのかを整理して、自分の言葉で説明することができる。

7 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
<p>・関東地方の自然環境や歴史的背景、都市の機能に関心を持ち、人口や都市という視点で意欲的に追究しようとしている。</p>	<p>・東京に大都市圏が形成される理由を、首都機能や産業分布から考えるとともに、人口集中によって発生した都市問題の原因や対策を表現している。</p>	<p>・関東地方の自然環境の特色や大都市圏の拡大、工業や農業の分布を、選択した地図や資料から読み取り、調べた内容を図や文章にまとめている。</p>	<p>・関東地方の自然環境や産業について、人工や都市という視点からみた特色を理解し、知識を身につけている。</p>

8 指導計画（全8時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評 価	
			関意	思判表	技能	知理	評価規準	資質・能力（評価方法）
課題の設定	1	関東地方の学習テーマをつかむ（1時間）【本時】	◎		○		<p>・関東地方の自然環境や歴史的背景、都市の機能に関心を持ち、人口や都市という視点で意欲的に追究しようとしている。</p>	【主体性】（ワークシート）
<p>単元を貫く問い（探究課題の萌芽）</p> <p>東京オリンピックを成功させるためのポイントは何だろうか。</p>								
情報収集	2	関東地方の自然環境と歴史（1時間）				◎	<p>・関東地方の自然環境や産業について、人工や都市という視点からみた特色を理解し、知識を身につけている。</p>	【表現力】（ワークシート）

	3	日本や世界における東京の役割 (1時間)	◎			・関東地方の自然環境や歴史的背景、都市の機能に関心を持ち、人口や都市という視点で意欲的に追究しようとしている。	【主体性】 (ワークシート)
整理・分析	4	東京大都市圏の特色と都市問題 (2時間)	◎			・東京に大都市圏が形成される理由を、首都機能や産業分布から考えるとともに、人口集中によって発生した都市問題の原因や対策を表現している。	【主体性】 【表現力】 (ワークシート)
まとめ・創造・表現	5	人口が集中することで発展した産業 (1時間)	◎			・東京に大都市圏が形成される理由を、首都機能や産業分布から考えるとともに、人口集中によって発生した都市問題の原因や対策を表現している。	【コミュニケーション力】 (ワークシート)
	6	関東地方の工業の発展と変化 (1時間)		◎	○	・関東地方の自然環境の特色や大都市圏の拡大、工業や農業の分布を、選択した地図や資料から読み取り、調べた内容を図や文章にまとめている。	【表現力】 (ワークシート)
	7	大消費地と関連する関東地方の農業 (1時間)		◎	○	・関東地方の自然環境の特色や大都市圏の拡大、工業や農業の分布を、選択した地図や資料から読み取り、調べた内容を図や文章にまとめている。	【コミュニケーション力】 (ワークシート)
実行・振り返り	8	単元の振り返り (1時間)	◎		○	・関東地方の自然環境や歴史的背景、都市の機能に関心を持ち、人口や都市という視点で意欲的に追究しようとしている。	【表現力】 (ワークシート)

単元を貫く問いの終結

東京オリンピックを東京都で成功させるためには、官公庁や企業との連携が欠かせない。その点、交通網が充実して、国の機関が集中しており、第三次産業を中心とした東京大都市圏は大会 PR から大会実施までを連動して行うことが可能になることが強みである。一方で、過密や感染症対策などの様々な都市問題を抱えてもいるので、その克服が大会成功のポイントであるとも言える。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- 東京オリンピックを成功させるポイントが何か、資料を根拠にして自分なりの意見を述べ、関東地方で学ぶテーマを知る。

(2) 本時の評価規準

- ・関東地方の自然環境や歴史的背景、都市の機能に関心を持ち、人口や都市という視点で意欲的に追究しようとしている。

(3) 準備物

- ・ワークシート、資料、テレビ、ホワイトボード

(4) 学習の流れ（1時間目／全8時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて）	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 本時のねらいの確認。[3分]		
1. 東京オリンピック大会について知っていることを問う。 <div data-bbox="229 600 1362 741" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ねらい 資料をもとにして、東京オリンピックを成功させるポイントを交流し、単元のテーマがわかる。 </div>	◇事前に調べさせた内容を発表する。	
2 本時の学習課題を設定する。[7分]		
2. 東京オリンピックの会場紹介をする映像を視聴し、なぜほとんど東京の臨海部だけで競技開催できるか考える。 <div data-bbox="236 1055 1353 1196" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習課題 ほとんどの競技をほぼ東京で実施し、選手・ボランティア・応援者を受け入れることができるのはなぜだろう。 </div>	◇ICT等を用いて、生徒が主体的に活動できるような学習課題を設定する。	
3 情報を整理・分析する。[10分]		
3. 資料の内容を読み取り、自分の意見をまとめる。	◇資料から分かることを整理する。 ◇複数の資料を組み合わせて自分にとって重要なポイント（自分の意見）を持たせる。 ◇「便利だから」等抽象的な表現には、なぜそうなるのか根拠を考えさせる。	
4 課題解決に向けて、意見を交流し思考を深める。[25分]		
4. グループで意見をまとめ交流する。 <div data-bbox="213 1832 1334 2047" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 予測される生徒の考え A評価 複数の資料から必要な情報を組み合わせて、背景や影響を考慮した上で、東京で大会実施できるポイントを述べている。 B評価 資料から分かる情報を組み合わせ、大会実施できるポイントを述べている。 </div>	◇資料から読み取れることが何か確認させ、大会成功に向けて重要であることを根拠をもとに説明させる。	

単元を
貫く問い

導入の
工夫

思考を
深める
学び合い

ホワイト
ボード
の活用

5. 本単元で深く学んでいき たいテーマを考える。	◇オリンピックを成功させるポイントを捉えるためには、東京をはじめとする関東地方の何を知る必要があるか考えさせ、次時からの授業につなげる。	
6 学習のまとめ・ふりかえりをし、次時につなげる。[5分]		
6. まとめ・ふりかえりを する。 ○まとめを書く。	◇東京オリンピックに対して自分の考えていたことの変化があったか考える。 ◆発表したグループの意見を参考にして、大会成功のポイントを考えさせる。	関東地方の自然環境や歴史的背景、都市の機能に関心を持ち、人口や都市という視点で意欲的に追究しようとしている。 【社会的事象への関心・意欲・態度】 (ワークシート) ★【主体性】 (ワークシート)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>まとめ例 東京オリンピックを成功させるポイントを明らかにするために、都市の機能と人の動きに着目して関東地方の学習をすることが分かった。</p> </div> <p>○振り返りを書く。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外のたくさんの人が訪れるオリンピックでは、交通の便の確保や整備、大会に向けた宣伝活動、競技会場・滞在場所の準備、国際機関との連携、交通渋滞や防犯対策等の問題の解決が大切だと改めて分かった。大会を成功させるために、都市が果たしている機能や人の動きが単元のテーマだと分かったので、関東地方の勉強を通して、それを深く学んでいきたい。 </div>		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック (パフォーマンス評価)

尺度 (評点・レベル)	記述語
A (理想的)	資料を組み合わせ、背景や影響を捉えながら、オリンピック成功のポイントと単元のテーマである都市機能と人の動きについて言及することができている。
B (合格)	資料を根拠にしてオリンピックを成功させるポイントを説明することができている。
C (乗り越えさせたい実態)	資料から分かったことを説明することができている。

(5) 板書計画

単元名 関東地方 (単元テーマ)

ねらい 資料をもとに東京オリンピックを成功させるポイントを交流し、単元のテーマが分かる。

学習課題 ほぼ東京で競技を実施し、多くの人を受け入れることができるのはなぜだろう。

1 班	3 班	5 班	② 関東地方のテーマは・・・ 人の流れ、都市の役割・課題 都市の生活を支える地方の役割
2 班	4 班	6 班	

まとめ

東京オリンピックを成功させるポイントを明らかにするために、人の動きと都市の機能に着目して、関東地方の学習を進める。

「B 衣食住の生活」ヒビザキ食のお悩み相談室 ～ 健康を支える食生活とは？ ～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 生活の自立に必要な食についての理解と技能 (学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和2年9月18日 14:05～14:55
- 2 学年 第1学年3組 (男子14名 女子17名 合計31名)
- 3 場所 新館1F 1年3組教室
- 4 題材について

○題材観

本題材は、新学習指導要領の内容「B 衣食住の生活」の、

(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的な特質について理解すること。

(イ) 中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解すること。

イ 中学生の1日分の献立について考え、工夫すること。

を取り扱うように設定している。

健康に日々の生活を送るためには、適切な食生活を送ることが重要である。特に中学生の時期は、身体の成長が著しいため、この時期に健康的な生活を送ることは、生涯健康に生きていくための基盤となるといえる。ここでは、中学生に必要な栄養を満たす食事について、栄養素や食品の栄養的な特質、中学生の1日に必要な食品の種類と概量、1日分の献立作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、1日分の献立を工夫することができるようにすることをねらいとしている。

○生徒観

本学級の生徒に、食生活についてアンケート調査を行った。(令和2年9月)

家庭科の中で興味のある分野
(1年3組)

(1)	食生活に関する分野	46%
(2)	衣生活に関する分野	6%
(3)	住生活に関する分野	10%
(4)	消費生活や環境に関する分野	10%
(5)	家族生活に関する分野	3%
(6)	無回答	26%

献立を考えるときに重要視する項目について
(1年3組) ※複数回答

(1)	栄養バランス	87%
(2)	手軽さ	45%
(3)	費用	45%
(4)	季節感	38%
(5)	好み	29%

生徒は、食に対して関心が高く、およそ半数の生徒が家庭科で食生活の関する分野に興味があると解答していた。また、小学校で一食分の献立について学んでおり、献立を考えるときに栄養のバ

ランスが必要であることは定着していることが調査から分かった。しかし、生徒自身の食生活に関する項目では、自分の食生活は改善が必要と考えている生徒の中で、「栄養バランスについて考えられていない」「野菜が取れていない」などと回答している生徒もおり、授業で身に付けた知識を実生活に活用できていないことが分かった。また、自分自身の食生活について自分で課題を見つけられない生徒が多く、具体的な指標を示し、自分の食生活をふり返り、実践につなげていくようにしたい。また、栄養素の働きを学び、献立に活かせるように気付かせたい。

○指導観

指導に当たっては、献立を立てる際には栄養、嗜好、調理法、季節、費用などの点から検討する必要があるが、ここでは主に栄養に重点を置いた食品の組合せを考えるよう指導する。食品群別摂取量を満たした1日分の献立を作成することができるように段階的な指導を行い、自分の食生活の課題に気づき、改善し、食生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。献立を作成する際には、含まれた食品とその量を裏に示した料理カードを使用し、普段の料理に何がどのくらい入っているのかを確認させたり、実物写真カードを用いて食品の概量を把握させる。自分の食生活を様々な視点から見て、課題を発見し、解決することができるような力を身に付けさせるため、次のような、指導の工夫をする。

- ① 学習課題を設定して、意欲を持たせる。
- ② 生徒の身近な料理を取り上げ、実生活との関連を図る。
- ③ 写真や映像、実物を用いて、強い探究心を持たせる。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	表現力・コミュニケーション能力			主体性
レベル1		（話す speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		（話す tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。

レベル3	(話す talk) ○自分の考えや意見を、 根拠を挙げて分かり やすくまとめ、目的や 場に応じて、適切な方 法で論理的に表現す ることができる。	(訊く) ○相手の考えについて、 根拠の信頼性を判断し ながらきき、話された 内容と自分の意見をふ まえて共通点や疑問点 を明確にし、相手にた ずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした 後に、自分の意見を述 べ、内容をさらに深め ることができる。	○自ら課題を見つけ、自 分の考えを持ち、より よい方法を選択し、自 ら進んで取り組もうと している。
レベル4	自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 題材の目標

- 食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量・献立の作成方法について理解する。
【新学習指導要領B(2)ア(ア)(イ)】
- 中学生の1日分の献立を考えることができる。
【新学習指導要領B(2)イ】

7 評価規準

ア 生活や技術への 関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し 創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術について の知識・理解
日常食の献立について関 心をもって学習活動に取り 組み、食生活をよりよ くしようとしている。	日常食の献立について課 題を見つけ、その解決を 目指して工夫している。	/	日常食の献立について理 解し、基礎的・基本的な 知識を身に付けている。

8 指導計画 (全○時間)

過程	次	学習内容 (時数)	観 点				評 価	
			関 意	工 夫	技 能	知 理	評価規準	資質・能力 (評価方法)
課題の 設定	1	食生活を振り返ろう。 (1時間)	○				ア 中学生の1日分の食事のとり方に関心をもち、自分の食事とかかわらせて考えようとしている。	【主体性】 (ノート)
単元を貫く問い (探究課題の萌芽)								
健康を支える食生活とはどのような食生活だろうか?								
情報 収集	2	食品にふくまれる栄 養素を知ろう。 ・食品に含まれる栄 養素の種類とはたら きについて (1時間)	○				ア 中学生の1日分の食事のとり方に関心をもち、自分の食事とかかわらせて考えようとしている。	【主体性】 (ノート)
	3	何をどれぐらい食べ たらよいだろう。 ・食品群別摂取量につ いて (1時間)	○			○	ア 自分の食生活に関心をもち、必要な栄養量を満たす食事のとり方をしようとしている。 エ 食品群や食品群別摂取量の目安について理解している。	・行動観察 ・ノート ・ペーパーテスト

整理・分析	4	自分の食事を見直そう。(1時間)			◎	エ 中学生の1日に必要な食品の種類と概量について理解している。	・行動観察 ・ノート ・ペーパーテスト
まとめ・創造・表現	5	献立を考えよう。 ～ヒビザキ食のお悩み相談室～ 【本時1/1】 (1時間)		◎		イ 1日分の献立について課題を見付け、必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせについて考え、工夫している。	【表現力, コミュニケーション能力】 (行動観察・ワークシート)
実行・振り返り	6	家庭での実践	◎			ア 自分の食生活に関心を持ち、必要な栄養量を満たす食事のとり方をしようとしている。	【主体性】 (ノート)
単元を貫く問いの終結 日々の自分の食べているものに関心を持ち、食事の時間や6つの食品群をバランスについて考えている食生活。							

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- 健康な食生活を送るために、1日の食生活の中で課題を見つけることができる。
- 六つの食品群がバランスよく摂取できる1日の献立を工夫することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・1日分の献立について課題を見付け、必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせについて考え、工夫している。(生活を工夫し創造する能力)

(3) 準備物

教科書、ワークシート、ホワイトボード、料理カード、資料

(4) 学習の流れ (5時間目/全6時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 [観点] ★資質・能力【評価方法】
1 既習事項の確認。[3分]		
・食品群についてふり返りをする	◇既習事項を確認させる。 ◆生徒の解答を確認し、実態把握をしておく。	
2 本時の学習課題を設定する。[6分]		
・学習課題を知る。	◇学年の先生たちの食生活の悩みを打ち明けている動画と、先生たちの1日の食事を見て、先生の悩みを解決するような献立を考えさせていく。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習課題 ～ ヒビザキ食のお悩み相談室 ～ 健康の悩みを解決する1日の献立を考えよう。 </div>		

導入の工夫

単元を
貫く問い

3 本時のねらいを確認する。[1分]

ねらい
健康な日々を送るための1日の食事を工夫することができる。

4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[20分]

<p>・個人で情報を整理する。</p>	<p>◇先生たちの1日の食事が記入してあるワークシートをもとに、どの食品群が不足しているか確認する。 ◇不足している食品群が、具体的にどのような食品を取ればいいのか全体で確認する。</p>	
<p>・グループで考えをまとめる。</p>	<p>◇1～6群が1日の中でバランスよく取れるように気づくワークシート、献立を選ぶための資料を準備する。 ◇何を一番に考えた献立をすすめるか話し合わせる。 ◆教科書にある献立例を参考にさせる。</p>	<p>★表現力・コミュニケーション能力 (行動観察)</p>

ワークシートの活用

予測される生徒の考え

A評価

- ・免疫力を高めるはたらきがあるビタミンCや細菌への抵抗力を高めるビタミンAを多く含む3群、4群を取るように意識している。
- ・体育の先生なのでエネルギーになる栄養素を多く含む食品を取れるようになっている。

B評価

- ・6つの食品群すべてが採れる献立になっている。

5 課題解決について発表し、吟味する。[15分]

<p>・グループの考えを発表する。</p>	<p>◇質問などないか確認したり、補足したりする。 ◆教科書P72を参考にさせる。</p>	<p>★表現力・コミュニケーション能力 (行動観察)</p>
-----------------------	---	------------------------------------

思考を
深める
学び合い

6 本時を振り返り、次時につなげる。[5分]

<p>○まとめ・振り返りを書く。</p> <p>生徒のまとめ・振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6つの食品群の中で2群や4群は摂取基準の目安が多いが不足しがちだった。飲み物やデザートなどを工夫することで摂取しやすくなるのが分かったので、これからの食生活でも実践してみたい。 		<p>1日分の献立について課題を見付け、必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせについて考え、工夫している。[工夫]</p> <p>★表現力 (ワークシート)</p>
---	--	---

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評価・レベル）	記述語
A（理想的）	献立を考えるときは，1日の食事を通して6つの食品群をバランスよくとることができるように考えることを理解しており，自分の生活の振り返り自分の食事は，3郡が足りていないので緑黄色野菜を意識してとるようにするなど改善案を考えている。
B（合格）	献立を考えるときは，1日の食事を通して6つの食品群をバランスよくとることができるように考えることを理解しており，自分の生活の振り返り自分の食事は，何群が足りていないなど振り返りができている。
C（乗り越えさせた実態）	献立を考えるときは，1日の食事を通して6つの食品群をバランスよくとることができるように考えることを理解している。

（5）板書計画

単元名 ねらい 学習課題	A先生 の 写真	A先生 の 1日の食事	B先生 の 写真	B先生 の 1日の食事
	A先生 の 悩み	ホワイトボード	B先生 の 悩み	ホワイトボード

「 文法 文の組み立て 」

～ よりよい文の作り方 ～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 言語知識・技能 (学校) 主体性

- 日時 令和2年9月18日 14:05～14:55
- 学年 第1学年1組 (男子15名 女子16名 合計31名)
- 場所 新館2F 1年1組教室
- 単元について

○教材観 本単元は、「伝国」の指導事項 イ(ウ)「文の中の文の成分の順序や照応、文の構成について考えること」に関連する単元である。文がどのような意味を表しているかを正確に理解したり、自分の表したいことが、的確に伝わる文を作ったりするためには、文の組み立てを正しく理解することが必要になる。文の組み立ての核になるのが主・述の関係である。ここでは、文を組み立てる「主語」「述語」「修飾語」などの文の成分を理解することをねらいとしている。

本単元では、まず、言葉にも単位があることを知り、次に「文」を組み立てる「文節」の働きについて学んでいく。そして、文を組み立てているのは、複数の「文節」であり、それらの文節は、「主語、述語、修飾語、接続語、独立語」の5つの働きに分けられることを理解する。私たちは、これらの文節を並べて、瞬時にして、「文」を作っていることになる。この単元を学ぶことで、文の「主・述」がねじれてはいないか、修飾語の位置はここでよいか、などと少し立ち止まって考えることができるようになれば、よりよい文の表現や理解につながるはずである。

○生徒観 本学級の生徒の文法に対する知識や学習についての意識調査を行った。(31名)

	質問	回答
(1)	文法(ことばのきまり)の学習は好きですか。	はい37% いいえ67%
(2)	文章を書くときに「主語はだれか」を考えて書いていますか。	はい27% いいえ73%
(3)	話すときに「主語はだれか」を意識して話していますか。	はい33% いいえ67%
(4)	「公園では、犬がワンワンほえていた。」の主語を答えなさい。	公園30% 犬70%
(5)	「わたし、兄ちゃんみたいにもてないから。」 このとき、兄ちゃんはもてる?もてない?	もてる83% もてない13% 両方4%
(6)	「母は 必死に 逃げる ねずみを 追いかけた。」 「必死」なのは、母?ねずみ?	母20% ねずみ73% 両方7%

本学級の生徒は、文法に苦手意識をもち、書いたり話したりするときに主語を意識していない生徒が多いようである。(4)の誤答が30%と多く、(5)(6)の文のあいまいさに気がついた生徒も一人だった。生徒の書いた作文を読むと、一文が極端に長い生徒や、段落が正しく作れていない生徒、主述のねじれなど、指導すべき点が多くある。今回の文法の単元が、文や文章を作らせる指導のいい機会だと捉えている。文法の学習を通して、よりよい文や文章を書くことを生徒たちに意識させたい。

○指導観 指導に当たっては、知識や用語の詰め込み、練習問題の解説に偏らないように留意し、生徒が自分たちの言語生活を振り返られるような学習活動を目指したい。そのために、カードを使って、いろいろな文を組み立てたり、カードを分類したりする活動を取り入れる。カードを並び替えることでさまざまな文ができるが、よりよい理解や表現につながるものはどれかを考えさせたい。

今年度、コロナ禍の影響で、「言葉の単位」(全2時間)と「文の組み立て」(全3時間)を連続して指導することになった。「言葉の単位」で、文節について学び、文節に区切ることができるようになっ

た後、ひき続き「文の組み立て」（文節の働き）の指導を行う。文法が苦手な生徒にとっては、連続して「文節」について学ぶため、「単語」と混乱しなくてすむのではないかと考えている。（なお、文を「単語」に分解する指導は、「単語の分類」の直前に行うことにする。）

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	（話す speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		（話す tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		（話す talk） ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

- 「主・述」「修飾・被修飾」などの関係について、理解する。
- 文節どうしの関係から、文の組み立てを考える。

7 評価規準

意欲・関心・態度	伝国
・文のきまりに関心をもち、言葉の単位や文節どうしの関係などについて理解しようとしている。	・文の組み立てにおいて、「主・述」「修飾・被修飾」の関係を理解している。 ・文節どうしの関係から、文の組み立てを考える。

8 指導計画（全5時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評 価	
			関意	伝国			評価規準	資質・能力（評価方法）
課題の設定	1	・言葉の単位 （2時間）	○				・文のきまりに関心を持ち、言葉の単位について理解しようとしている。【国語への関心・意欲・態度】	【主体性】（観察）
単元を貫く問い（探究課題の萌芽） 文にはどんなきまりがあるのだろう。								
情報収集・分析	3	・文の組み立て （2時間） 本時		◎			・文の組み立てにおいて、「主・述」「修飾・被修飾」の関係を理解している。 【	【主体性】（観察） 【言語知識・技能】（ワークシート）
まとめ・振り返り	5	・複雑な文の組み立て （1時間）	○				・文節どうしの関係から、文の組み立てを考える。	【主体性】（ワークシート）
単元を貫く問いの終結 文を組み立てるパーツは、「文節」である。文節は、「主語・述語・修飾語・接続語・独立語」の働きをしながら、文を組み立てている。この五つを「文の成分」という。								

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○「主・述の関係」「修飾・被修飾」など、文の成分について理解する。

(2) 本時の評価規準

・文の組み立てにおいて、「主・述」「修飾・被修飾」の関係を理解している。

(3) 準備物

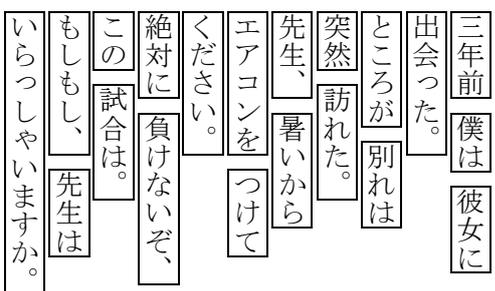
・カード，練習問題プリント（基礎編，チャレンジ編）

(4) 学習の流れ（3時間目／全5時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて）	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 既習事項の確認。〔3分〕		
・「言葉の単位」「文節」について振り返る。	◇「言葉の単位は5つです。文章，段落，文，文節，そして最後に単語です。」 ・文をさらに分けると「文節」になる。 ◆前時のプリントを見て思い出させる。	
2 本時の学習課題を設定する。〔5分〕		

<p>・例文を読み、考えよう。</p>	<p>・トムは 必死に 逃げる ジェリーを 追いかける。 ◇「必死に」が トムとジェリー両方に受け取れることに気がつかせる。→あいまいである。</p>	
<p>学習課題 よりよい文の作り方を考えよう。</p>		
	<p>よりよい文とは 相手にちゃんと伝わる。誤解がない。わかりやすい。あいまいでない。</p>	

3 情報を整理・分析し、課題解決をする。[17分]

<p>・20枚のカードから、5つの文を作ってみよう。</p> <p>・どうやってその文を作ったのか、振り返ろう。</p> <p>・20枚のカードを働きの似ているものでグループに分類しよう。 (小グループ・ホワイトボード)</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>◇まず、「誰が」と「どうする。」の組み合わせを考えた。これが文の柱になる。 「誰が」がない文もある。</p> <p>① 僕は～出会った。 ② 別れは～訪れた。 ③ ()～エアコンを つけて ください。 ④ ()～負けないぞ、 ←「、」に注目させる。 ⑤先生は いらっしやいますか。</p> <p>◆「先生」と「先生は」は同じグループかどうか。 ◆「暑いから」は、暑い+だからと考える。 ・「いつ、誰に、どのように、何を」→修飾するグループ ◇「もしもし、」「先生、」はその他にしてもよい。</p>	<p>【主体性】(観察)</p> <p>・文の組み立てにおいて、「主・述」「修飾・被修飾」の関係を理解している。</p> <p>【言語知識・技能】 (ワークシート)</p>
--	---	--

5 課題解決について発表をする。[10分]

<p>・3グループに発表させる。</p> <p>・質問や意見を出させる。</p>	<p>・いくつかのグループに分けたか。 ・それぞれのグループの特徴。</p> <p>【誰が、何が】 ←主語 【どうする】「。」がついている。 ←述語 【いつ、誰に、どのように、何を】 ←修飾語 【つなげる】 ←接続語 【その他】 ←独立語</p>	
--	---	--

6 学習のまとめをする。[5分]		
3 本時のねらいを確認する。[5分]	<ul style="list-style-type: none"> みんながグループに分けたそれぞれが「主語・述語・修飾語・接続語・独立語」である。 文を組み立てるのは、主語・述語・修飾語・接続語・独立語の働きをもつ文節である。 この五つを「文の成分」という。 	
7 本時を振り返り、次時につなげる。[5分]		
○振り返りを書く。		
<p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 文を作るのは文節なのだと改めてわかった。 5つの文の成分を知ることができた。 主語と述語をはっきりさせて、書いたり話したりしたいと思う。 文節を並べる順序が大切なことがわかった。 主語をかん違いしないように述語との関係を確認したい。 		
○練習問題を解く。		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	「主・述」や「修飾・被修飾」の関係を捉え、「接続語」「独立語」との区別が理解出来ている。学習したことを自分が文を書いたり、話したりするときに生かそうとしている。
B（合格）	「主・述」や「修飾・被修飾」の関係を捉えることができています。
C（乗り越えさせたい実態）	「主・述」の関係を捉えることができない生徒には、まず、述語を確認し、それに対する「誰が」を探させるよう指導する。

(5) 板書計画

接続語 **修飾語** **主語** **独立語**

の位置に気をつけて

よりよい文を作るには、五つの文の成分を上手く組み立てよう。

〔その他〕

先生、
もしもし、

〔いつ、誰に、どのように〕

三年前・彼女に
突然・
エアコンを、
絶対に・
この・試合は。

〔誰が、何が〕

僕は
別れは
先生は

〔つなげる〕

ところが、
暑いから

〔どうする〕

出会った。
訪れた。
つけてください。
負けないで、
いらっしゃいますか。

単元名 文法 文の組み立て

学習課題 トムは必死に逃げる。ジェリーを追いかける。

「メディアと上手に付き合うために」

～ HSP 南海トラフ大地震を生き残るための情報源はどれだ！？ ～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 読む能力 (学校) 表現力

- 1 日時 令和2年9月17日 13:00～13:50
- 2 学年 第2学年2組 (男子16名 女子15名 合計31名)
- 3 場所 新館3F 2年2組教室
- 4 単元について

○ 教材観

本単元は、中学校学習指導要領（平成20年）の第2学年「C 読むこと」の指導事項「オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること」を受けて、本や文章などから情報を得て考え、更にはそれを書き表す力を育てることをねらいとして設定する。

本や文章などから情報を得て考える力とは、情報を得るための様々な媒体の特徴を知り、それを生かした情報収集を行う力や、得た情報をどのように引用すればいいか考える力のことである。情報化社会となっている昨今、適切に情報を選び、それらを整理する中で自分の考えをまとめる能力は、多くの場面で求められる。

本単元では、テレビの情報伝達を例にして、様々なメディアの特徴が具体例と共にわかりやすく解説されている。また、メディアが伝える情報を有効に生かすためには、メディアの特徴を知る必要があるという筆者の考えが述べられている。生徒たちはこれから、多くのメディアによって情報活用を行わなければならない。そのため生徒は本教材を通して、メディアの特徴を考え、状況によって適切な方法を選び、情報を得て考えをまとめる能力を身に付けることができると考える。

○ 生徒観

本学級の生徒は国語の授業に意欲的に取り組み、聞かれたことに対して発表するだけでなく、分からない点があれば全員で共有しようとしたり、意見を尊重したりするなど、互いを認め合う雰囲気が感じられる。また、令和2年度標準学力調査中学校2年国語における「伝えたい事実や事柄について自分の考えを明確にして書くこと」に関する設問の全国正答率は54.0%である。これに対して校内正答率が69.8%であるなか、本学級の正答率は60.7%と低くなっている。また約三割の生徒が準正答にも及んでおらず、無解答の生徒の割合も一割を超えている。自分の考えを明確にするためには、自らの考えの根拠を自身の中に持つ必要があるが、受けた物事を深く考えるまでには至っていない部分がある。

○ 指導観

指導に当たっては、様々なメディアを比較して特徴を知り、実生活の場面や有事の際に生かす能力を身に付けることを目的として、ねらいを「様々なメディアを比較し、長所と短所を分析して、適切なメディアを選択することができる」と設定した。課題を示した後、テレビ・新聞・インターネットから得られる情報を比較することで、各メディアの特徴をとらえさせる。また示す情報も、本年2月末に報道された「新型コロナウイルスのための一斉休校」を扱うことで、生徒は身近な話題として当時のことを振り返ることが可能であると考えられる。

その後、生徒を学習班に分け、メディアの特徴を踏まえた上で、生徒たちのこれからの生活に関係

した内容である「南海トラフ大地震が発生した際にどのメディアを用いるか」をミニホワイトボードに協力してまとめさせる。その後、まとめたものを発表し、互いの発表を聞き合うことで、改めて自分の考えを深めて自らの考えに根拠を持ち、それを文章で書き表すことができるようにさせたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で (ミニホワイトボード等を使用して)	(話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		(話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

- メディアとの付き合い方について関心を高める。(国語への興味・関心・意欲・態度)
- メディアの特徴を理解し、どのように活用するべきか考え、筆者の意見を踏まえて自分の考えを書き表すことができる。(読むこと)
- メディアという言葉の意味や、それぞれ文章の形態や展開に違いがあることを理解できる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

7 評価規準

国語への興味・関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関わる事項
・メディアの特徴に興味をもち、付き合い方について考えを深めたり、情報を集めたりしている。	・本文を読み、書かれているメディアの特徴を理解することができる。 ・理解したメディアの特徴をもとに、活用の仕方や注意点について自分の考えを書き表すことができる。	・メディアという言葉の意味や、形態の違い理解することができる。

8 指導計画（全2時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点					評 価	
			関意	話聞	書	読	伝国	評価規準	資質・能力（評価方法）
・課題の設定 ・情報収集	1	・本文を読み、メディアという語の意味や、それに対する筆者の考えを読み取る。（1時間）	○			○	○	・メディアという言葉の意味や、形態の違いを理解することができる。 ・筆者が述べるメディアの特徴や、その扱いの注意点について理解することができる。	
単元を貫く問い（探究課題の萌芽） 南海トラフ大地震が起こったとき、的確に情報を収集するためにはどうすればいいだろう。									
整理・分析・まとめ ・表現・振り返り	2	・具体例をもとにメディアの特徴を整理する。 ・状況を踏まえ、用いるメディアを適切に選択し、その理由を自分の言葉で書き表す。 （本時・1時間）				◎		・具体例をもとに、筆者の意見を踏まえてメディアの情報を比較・整理することで、その特徴を理解することができる。 ・特徴を理解して状況に相応しいメディアを選択し、その理由を自分の言葉で書き表すことができる。	【表現力】 （ワークシート）
単元を貫く問いの終結 情報収集の媒体であるメディアにはそれぞれ特徴がある。インターネットは情報が出回るのが早く、私たちにとって身近な情報収集の手段であるが、嘘の情報も多く、情報が玉石混交である。テレビは生放送などの同時性があり、情報を早く正確に知るには優れたメディアである。新聞は情報量こそ多いものの、印刷という手間が加わるため、詳しく情報を得るには良いが、即座に情報を求める際には手段として有効ではない。地震が起こった際は、どれか一つに絞って使う必要はなく、自分がその時に相応しいメディアを、その特徴を踏まえて用いることが大切である。									

9 本時の展開

（1）本時の目標

○様々なメディアを比較し、長所と短所を分析して、適切なメディアを選択することができる。

（2）本時の評価規準

○具体例をもとに、筆者の意見を踏まえてメディアの情報を比較・整理することができる。

○特徴を理解して状況に相応しいメディアを選択し、その理由を自分の言葉で書き表すことができる。

（3）準備物

○同一ニュースの新聞記事・ネット記事・ニュース映像等、ワークシート、ホワイトボード、テレビ、パソコン

(4) 学習の流れ (2時間目/全2時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 既習事項の確認。[2分]		
1-1 課題の設定 ・今までのHSPを振り返る。 これから南海トラフで生き残るためにどうすべきかを問う。	◇「南海トラフで生き残る」ためにどうすればいいのかを考えさせる。	
2 本時のねらいを確認する。[1分]		
ねらい 様々なメディアを比較し、長所と短所を分析して、適切なメディアを選択し、自分の言葉で書き表すことができる。		
3 情報を整理・分析する。[12分]		
・コロナでの一斉休校を扱った ①ニュースの映像 ②新聞記事 ③インターネットの記事 を生徒に紹介する。 1-2 個人活動 ・各自で①～③を比較させ、それぞれの特徴をワークシートに記入させる。 ・個人で考えたメディアの特徴を班で簡単に確認する。 ・班で確認したメディアの特徴を全体で確認する。	◇長所も短所もどちらも書くことを確認する。 ◆書けない生徒には、前時に扱った本文の内容を確認させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 生徒の発表例 <テレビ>いち早くニュースを知ることができる・中継など同時性がある・編集されている <新聞> 印刷までに時間がかかる・情報量が多い・一覧性がある・保存しておける <インターネット>誰でも発信できる・すぐに調べられる・誤った情報がある </div>	・メディアの情報を比較・整理することで、その特徴を理解することができる。〔読むこと〕 (ワークシート)
本時の学習課題を設定し、課題解決をする。[15分]		
学習課題 どんなメディアを使えば、南海トラフ大地震を生き残ることができるだろう。		
2 グループ活動(4～5人) ・各班で「南海トラフ大地震の発生時に使用することが一番ふさわしいメディア」を考え、理由と共にホワイトボードにまとめる。	◇余裕があれば、他のメディアを用いない理由も記入させる。	

導入の工夫

単元を貫く問い

思考を深める学び合い

5 課題解決について発表をする。[10分]		
3 グループでの発表（交流） ・班でまとめた意見を全体に向けて発表する。		
4 全体での交流 ・生徒の意見を元にメディアの特徴を再確認する。	◇今回意見に出ないであろう新聞について、どのような場面に活用できるかや、その特徴を改めて確認させる。	
6 学習のまとめをする。[5分]		
5 まとめ・振り返り ・南海トラフ大地震が起こった際に、どんな場面でどのメディアを選択するか、自分の考えをワークシートに記入する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>A評価 私は南海トラフ大地震が起こった時にインターネットを使います。色んな場所の被害状況がすぐ確認できるし、移動しながらでも扱えるからです。ただし、嘘の情報もあるかもしれないため、その情報を受け取るときは慎重に考える必要があると思います。</p> <p>B評価 私は南海トラフ大地震が起こった時にインターネットを使います。すぐに状況がわかって便利だからです。</p> </div>	<p>・特徴を理解して状況に相応しいメディアを選択し、その理由を自分の言葉で書き表すことができる。[読むこと]</p> <p>★表現力 (ワークシート)</p>
7 本時を振り返り、次時につなげる。[5分]		
○振り返りを書く。		
<p>・メディアにはそれぞれ特徴があるが、地震発生の際には情報をすばやく得ることが重要であり、その際にはインターネットやテレビなどのメディアが有効であることがわかった。</p> <p>・メディアには特徴があり、その状況に応じて選択するものを考える必要があることがわかった。</p>		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	南海トラフ大地震が起こった状況を想定し、前時および本時に確認したメディアの特徴を踏まえて、具体的な理由を挙げて状況に相応しいメディアを選択することができる。
B（合格）	南海トラフ大地震が起こった状況を想定し、本時に確認したメディアの特徴を踏まえて理由を挙げ、状況に相応しいメディアを選択することができる。
C（乗り越えさせたい実態）	南海トラフ大地震が起こった状況において、どのメディアを用いることが適切であるかを考えたり、選択したりすることができない。

(5) 板書計画

単元名	メディアと上手に付き合うために		
ねらい	長所と短所を分析して		
学習課題	適切なメディアを選択することができる。 どんなメディアを使えば、南海トラフ大地震を生き残ることができるだろう。		
まとめ	生き残るためのメディア インターネット 移動しながら使え、状況がすぐに確認できるが、信頼できる情報かどうかには注意する必要がある。		

「器械運動(跳び箱運動)」 ～ 頭はね跳びの My Point は? ～

本単元で育成する資質・能力

(学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和2年9月18日 13:00～13:50
- 2 学年 第3学年1組 (男子21名 つばさ3名 合計24名)
- 3 場所 体育館
- 4 単元について

○ 教材観

本単元は、マット・鉄棒・平均台・跳び箱を使った「技」によって構成されている運動であり、どの種目にも特性に応じて多くの「技」がある。自己の能力に適した技に挑戦しその技ができる楽しさや喜びを味わうことができる。

跳び箱運動では、跳び箱上で自己の体の動かし方や練習の方法を学習し工夫することが大切である。回転系、切り返し系などの技1つ1つに難度があり、その中から自己の能力に適した技を選択し練習をすることができる。平衡感覚や柔軟性など運動の基本となる能力を身につけることができる。

しかし跳び箱運動は、「好き」「嫌い」がはっきりしているため、「できない」と苦手意識を持ちやすい単元でもある。そのため、仲間と協力し合うことによって、互いに指摘し、自己の課題に応じた練習の工夫を共に行うことにより、グループ内での喜びや達成感を味わうことができる。

○ 生徒観

本学級の生徒は、生徒アンケート(22名に実施)では、「外に出て運動するなどして体を動かしている。」という問いに「よく」「やや」と答えた生徒が20人(約90%)であるが、「あまり」「まったく」と答えた生徒が2人(約10%)であった。このことから、運動習慣が身につけている生徒が大半だが、否定的な生徒(運動が苦手)な生徒がいることが分かる。

また、「自分はやればできると思う」という問いに対しては、「よく」と答えた生徒は10人(約45%)であり、「やや」と答えた生徒は12人(約55%)であった。このことから、授業に対して意欲的で、自分の力を十分に発揮しようとする生徒は多いが、運動に対する苦手意識をぬぐうことができず、失敗を恐れて本気で取り組むことができない様子もうかがえる。基礎的な技能の習得を図り、グループ学習で互いのよさを認め合うことで生徒の学習に対する意欲を高めていきたい。

○ 指導観

指導に当たっては、器械運動は「できる」「できない」の結果が明確にあらわれる種目である。「できた」という喜びを味わわせるためにも、それぞれ自己の能力に適した技を選択し、個々の技ができるようにするとともに、よりよくできるように練習を工夫しながら技能を高めさせていきたい。器械・器具を用いて学習したり練習したりしていくことから、仲間と協力しあうとともに器械・器具を点検し安全を確認しながら練習することを常に心がけさせる。

また、生徒のつまづきを分析し、その克服のための練習の場の設定を工夫したり、ペア学習やグループ学習を有効に使い、より楽しく意欲的に取り組めるように指導したい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で (ミニホワイトボード等を使用して)	(話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		(話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

- 技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。(技能)
- 跳び箱運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする。(関心・意欲・態度)
- 課題に応じて、技をよりよくできるようにするためのポイントを考え、伝えることができる。(思考・判断)
- 技の名称や行い方、関連して高まる体力を理解できるようにする。(知識、思考・判断)

7 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱運動に積極的に取り組もうとしている。 ・仲間のよい演技を認め、互いに教え会おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技の合理的な動き方のポイントを身につけている。 ・仲間と学習する場面で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて行うことができる。 ・切り返し系や回転系の滑らかに安定した基本的な技、条件をかえた技、発展技のいずれかができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技の名称や行い方、関連して高まる体力について理解している。

8 指導計画（全7時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評 価	
			関意	思判	技能	知理	評価規準	資質・能力（評価方法）
課題の設定	1	オリエンテーション 単元の目標と学習の進め方の確認 基本的な技能の再確認（1時間）	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱運動に積極的に取り組もうとしている。 ・技の名称や行い方、関連して高まる体力について理解している。 	【主体性】 （行動観察） （ワークシート）
		単元を貫く問い（探究課題の萌芽） 各技の完成度を高めるためのポイントはなんだろうか？						
情報収集・整理・課題練習	2	提示された技やその練習方法を体験し、自分の課題を見つけ、解決方法を見つける。 （切り返し系・回転系） 【本時2／2】		◎			<ul style="list-style-type: none"> ・技の合理的な動き方のポイントを身につけている。 ・仲間と学習する場面で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。 	【主体性】 【コミュニケーション能力】 （ワークシート） （行動観察）
		課題を解決しながら、自己の課題に応じた練習 （2時間）			○		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて行うことができる。 ・仲間と学習する場面で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。 	【表現力】 【コミュニケーション能力】 （ワークシート） （行動観察）
整理・課題練習	4	実技テストに向けた課題練習 （1時間）	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ・技の名称や行い方、関連して高まる体力について理解している。 ・仲間のよい演技を認め、互いに教え会おうとしている。 	【主体性】 【表現力】 （ワークシート） （行動観察）

まとめ・表現・振り返り	5	実技テスト (1時間)		◎	○	・切り返し系や回転系の滑らかに安定した基本的な技，条件をかえた技，発展技のいずれかができる。 ・技の合理的な動き方のポイントを身につけている。	【表現力】 (行動観察) (実技テスト)
-------------	---	----------------	--	---	---	--	----------------------------

単元を貫く問いの終結

技の合理的なポイントが分かり，自己の課題を見つけ，よりよい演技ができる。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○課題に応じて，技をよりよくできるようにするためのポイントを考え，伝えることができる。

(2) 本時の評価規準

- ・技の合理的な動き方のポイントを身につけている。
- ・仲間と学習する場面で，仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。

(3) 準備物

- ・跳び箱・マット・TV・PC・タブレット・ワークシート

(4) 学習の流れ (3時間目/全7時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 既習事項の確認。[10分]		
集合・あいさつ 準備運動 柔軟体操・補強運動	◇柔軟体操をするときは，息を吐きながら行うことを意識させる。 ◆動きの具体的なポイントを伝える	
2 本時の学習課題を設定する。[3分]		
本時の学習課題を設定する。	◇動画を使って，技のイメージを持たせる。	
学習課題 技の完成度を高めるためにはどうすればいいのか		
頭はね跳びの映像を視聴する	◆映像を活用し，生徒が主体的に活動できるよう，「解決したい」或いは「達成したい」学習課題を設定するようにする。	
3 本時のねらいを確認する。[2分]		
ねらい 頭はね跳びの My Point を探し，説明できる。		

導入の工夫

単元を貫く問い

4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[15分]		
<p>自分の練習場所に移動し、グループを作って練習する。 グループで練習し、マイポイントや相手の課題を確認し伝える。</p>	<p>◇パートナーの演技を見るとき視点の説明する。 ◇安全に留意して練習するよう注意する。 ◇見る視点を明確にし、チェックポイントをつける。 ◆練習方法が適切かどうか考えることができる声かけを行う。 ◆苦手な生徒は段階的に練習させるようにする。 ◆補助につけられるようにする。</p>	<p>仲間と学習する場面で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。(思考・判断) ★コミュニケーション能力【ワークシート・行動観察】</p>
5 課題解決について発表をする。[5分]		
<p>グループで見つけたポイントや課題を発表する。</p>	<p>◇ワークシートやチェックポイントを元に発表できるようにする。</p>	<p>仲間と学習する場面で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。(思考・判断) ★コミュニケーション能力【ワークシート・行動観察】</p>
<p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価 手より前方に額をつける。 体のはねと腕の突き放しのタイミングを合わせる。 ひざを伸ばすことで大きく回ることができる。 頭より腰が前に出たからのはねる動作をする。</p> <p>B評価 (課題) 踏切が弱く、腰とおしりが浮かんでいなかった。 踏切と着手が同時になってしまっていた。 着手位置と頭の位置が近すぎた。</p>		
6 学習のまとめをする。[10分]		
<p>他のグループや自分のグループの課題や気づき・ポイントを元に練習する。</p>	<p>◇安全に留意して練習するよう注意する。 ◆練習方法が適切かどうか考えることができる声かけを行う。 ◆苦手な生徒は段階的に練習させるようにする。</p>	
7 本時を振り返り、次時につなげる。[5分]		
<p>○振り返りを書く。</p>		
<p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭のはね跳びは手の突き放しと体のはねのタイミングが重要だと分かった。 ・膝を伸ばすことで回転が大きくなると分かった。 ・着手位置と額をつける位置が重要なので気をつけていきたい。 		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	技のポイントを見つけて伝え、教えあうことができた。
B（合格）	技のポイントを見つけ、伝えることができた。
C（乗り越えさせたい実態）	技のポイントを探し、説明することができない。

（5）板書計画

<p>単元名 器械運動（跳び箱運動）～頭はね跳びの MyPoint は？～</p> <p>学習課題 技の完成度を高めるためにはどうすればいいか</p> <p>ねらい 頭はね跳びの MyPoint を探し、説明できる</p> <p>MyPoint 手より前方に額をつける。 体のはねと腕の突き放しのタイミングを合わせる。 ひざを伸ばすことで大きく回ることができる。 頭より腰が前に出てからはねる動作をする。</p> <p>課題 踏切が弱く、腰とおしりが浮かんでいなかった。 踏切と着手が同時になってしまっていた。 着手位置と頭の位置が近すぎた。</p>	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭はね跳びは手の突き放しと体のはねのタイミングが重要だと分かった。 ・膝を伸ばすことで回転が大きくなると分かった。 ・着手位置と額をつける位置が重要なので気をつけていきたい。
---	---

「 傷害の防止 」

HIBIZAKI SURVIVAL PROJECT 命を救え！！一人命救助編—

～ 人命救助における応急手当に必要なこととは？ ～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 知識を活用して多様な解決方法を考える力
(学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

1 日 時 令和2年9月18日 13:00～13:50

2 学 年 第3学年1組 (女子18名 合計18名)

3 場 所 本館3F 3年1組教室

4 単元について

○ 単元観

本単元の応急手当の意義について学ぶ単元である。傷害が発生した際に、その場に居合わせた人が行う応急手当としては、傷害を受けた人の反応の確認等状況の把握と同時に、周囲への連絡、傷害の状態に応じた手当が基本であり、迅速かつ適切な手当は傷害の悪化を防止できることを理解できるようにする。その際、応急手当の方法として、止血や患部の保護や固定を取り上げ、理解できるようにする。

また、心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当としてが、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）使用の心肺蘇生法を取り上げ、理解できるようにする。

その際、必要に応じて医師や医療機関などへの連絡を行うことについても触れるようにする。

○ 生徒観

本学級の生徒は、非常に活発に作業を行うことができる。体育分野の授業においては、互いにアドバイスをしながら、課題に取り組むことができる。保健分野の授業においても、自らの生活に結び付けて、課題意識を持って学習に取り組むことができる集団である。

緊急時の人命救助についてのアンケートを実施したところ、以下のような結果がわかった。AEDについて知っているかという問いに関しては全生徒が知っていると回答した。2年次の学びからAEDについては理解していると考えられる。

Q 部活動の試合や商業施設に行ったとき、AEDの場所を確認しますか？

18人中

確認する (0人)

時々確認する (5人)

確認しない (13人)

次に、AEDの場所を確認するかという問いに対してはほとんどの生徒が確認しないと回答している。緊急時への備えという面においては意識が低いように感じられる。

Q 街中や通りすがりに人が倒れた場合、緊急時の対応に自信がありますか？

18人中

ある (3人)

まあまあある (4人)

あまりない (6人)

ない (5人)

また、緊急時の対応に関しては、半数以上の生徒が自信がないと回答している。緊急時の対応として不安な点は「すぐに動けるのか」や「パニックになるかもしれない」という回答もあった。

以上のことから、AEDなどの基礎的な知識はあるかもしれないが、いざという時にとっさに動けるのが課題となっている。

○ 指導観

指導に当たっては、緊急時での対応を想定した学習になるようにする。本単元は2学年で学ぶ単元の発展的な内容である。AEDや心肺蘇生法について学んだ上で、緊急時の対応を組み立てていく。アンケートの結果からもわかるように、基礎的な知識はある程度あるが、いざというときに対応で

きるかが問題となってくる。今年度、総合的な学習の時間では、南海トラフ巨大地震に取り組んでいる。事前に学んだ知識をどのように活かすことができるのかが課題である。今回の学習は、既習事項を緊急時にどのように活用できるかが焦点となる。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	授業の展開の場面で (ミニホワイトボード等を使用して)	表現力・コミュニケーション能力			主体性
レベル1		(話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		(話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

- 傷害の防止について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- 傷害の防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、科学的に考え判断し、それらを表すことができる。【本時】 (思考・判断)
- 自然災害などによる傷害の発生要因やそれらによる傷害の防止、応急手当について、課題の解決に役立つ基礎知識的な事項及びそれらと生活の関わりを理解することができる。(知識・理解)

7 評価規準

健康・安全への関心・意欲態度	健康・安全への思考・判断	健康・安全への知識・理解
・ 傷害の防止について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	・ 傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	・ 応急手当について理解したことを言ったり、書き出したりしている。

8 指導計画（全2時間）

過程	次	学習内容 (時数)	観 点			評 価		
			関 意	思 判	知 理	評価基準	資質・能力 (評価方法)	
課題 の 設 定	情 報 収 集	1	(1時間) 2年次に実施	○		○	・ 傷害の防止について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ・ 自然災害による傷害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。	【表現力・コミュニケーション能力】 (行動観察)
単元を貫く問い（探究課題の萌芽）								
人命救助における応急手当に必要なこととは？								
整 理 ・ 分 析	ま と め ・ 創 造 ・ 表 現	実 行 ・ 振 り 返 り	2	(1時間) 【本時】		○	・ 傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	【知識を活用して多様な解決方法を考える力】 (行動観察 振り返りシート)
単元を貫く問いの終結								
事前の知識（AEDの使い方・設置場所・心肺蘇生法の手順の把握） 一人でどうにかするのではなく、周囲に助けを求める力や協力する力								

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- 傷病者の状態や発生場所に合わせて、安心安全な救助手順を考え、学習した内容から自らの行動を考えることができる。 (思考・判断)

(2) 本時の評価規準

- ・ 傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。 (健康・安全への思考・判断)

(3) 準備物

ホワイトボードセット・モニター・iPad・資料・学習プリント

(4) 学習の流れ (2時間目/全2時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 [観点] ★資質・能力【評価方法】
1 人命救助について知る。[5分]		
導入の工夫 <p>・人命救助の動画を視聴する。</p>	◇緊急時における人命救助の場面の映像を見せる。	
2 本時の学習課題を設定する。[30秒]		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習課題 もし、皆さんの目の前で人が倒れたら・・・登下校中や部活動中に友達を救助しないとけない場面に出くわしたら、あなたはどのようにしますか? </div>		
3 本時のねらいを確認する。[30秒]		
単元を貫く問い <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ねらい 傷病者の状態や発生場所に合わせて、安心安全な救助手順を考えることができる。 </div>		
4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[40分]		
小グループの活用 <p>ステップ1 〈グループ学習〉 ・資料をもとに、救助の手順を考える。(15分) ①必要な役割 ②連絡機関 ③救助の手順 ④その他必要事項</p> <p>ステップ2 ・実演を交えて発表する。(5分)</p> <p>ステップ3 ・意見の交流を行い、質問や共通点を出し合う。(5分) ・発表後心肺蘇生法の手順について再度確認する。(2分)</p> <p>ステップ4 ・手順について再度考える。(8分)</p> <p>ステップ5 ・改良した点、こだわりをもった点について発表する。</p>	<p>◇グループ分けを行う。(5グループ) 想定される負傷者発生場所 1 日比崎中学校 2 日比崎小学校 3 尾道駅付近 4 商店街 5 西公園</p> <p>◆資料を説明しながら、配慮する点について整理するよう声かけを行う。</p> <p>◇ポイントになるところに印を付ける。</p> <p>◇発表を聞きながらポイントに印をつける。</p> <p>◇実演を交えながら、心肺蘇生法の手順について確認する。</p>	<p>★知識を活かして多様な解決方法を考える力 [話し合い]</p> <p>傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。[思・判] (ホワイトボード)</p>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 予測される生徒の考え A評価 周囲の人を巻き込んで救助の役割分担をする。 AEDの手配・心肺蘇生を行う人・周囲の安全を確保する人・救急車を呼ぶ人など、役割分担を行う。 B評価 救助するために必要なことを書き出す。(役割分担などまで詳しくは書かれていない。) </div>		

改良した点がないグループは「ここは大切にしたい」「ここは重要だ」という点について発表する。(5分)		
5 学習のまとめをする。[2分] A		
・学習のまとめを行う。	◇生徒の発表から出た言葉を用いて、「応急手当」や「自分にできること」という視点からまとめを行う。	
7 本時を振り返り、これからの生活につなげる。[3分]		
・振り返りを書く。		
<p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の人命救助は一人ではできない。救助するためには、役割分担を行って、手順を明確にして行うことが重要であると分かった。もしもの時のために、普段から AED の場所を確認しておくなど、日頃からできることも行っていきたい。 		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック (パフォーマンス評価)

尺度 (評点・レベル)	記述語
A (理想的)	緊急事態時における人命救助について必要なことが2つ以上書かれている。(AEDの手配・応援を呼ぶ・周囲の安全を確保するなど)
B (合格)	緊急事態時における人命救助について必要なことが書かれている。(AEDの手配・応援を呼ぶ・周囲の安全を確保するなど)
C (乗り越えさせたい実態)	感想

(5) 板書計画

HIBIZAKI SURVIVAL PROJECT 命を救え！！～人命救助編～

単元名 保健 傷害の防止

ねらい 傷病者の状態や発生場所に合わせて、安心安全な救助計画を考えることができる。

学習課題 もし、皆さんの目の前で人が倒れたら・・・登下校中や部活動中に友達を救助しないとけない場面に出くわしたら、あなたはどうしますか?

心肺蘇生の手順

生徒からでたキーワード

AED
助けを呼ぶ
119番

安全の確保
気道の確保
呼吸の確認

「 1次関数 」

～ 日常の中にある問題を解決しよう ～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 数学的技能, 活用力 (学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和2年9月17日 14:05～14:55
- 2 学年 第2学年2組 (男子15名 女子16名 合計31名)
- 3 場所 新館3F 2年2組教室
- 4 単元について

○単元観

～省略～

○生徒観

多くの生徒は授業に真剣に意欲的に取り組んでいる。学習に対する関心意欲は高く、発問に対して積極的に答える生徒もおり、授業の雰囲気はよい。

4月実施の標準学力調査では、平均正答率68.0% (学年) で全国平均正答率59.8%を8.2ポイント上回っていた。「関数」領域に関しては、平均正答率は63.8% (全国55.2%) であり、「関数の意味」や「比例の関係を式で表す」問題の定着率が他の問題に比べ低い傾向にある。問題の中にある数量関係を見だし、それを立式することに苦手意識を持っている生徒は少なくない。

○指導観

上記実態をふまえ、まず、1年次の学習内容である「関数の意味」「比例」の復習を行い、その定着を図ると共に、数量関係を見だしやすい具体的な問題場面から「1次関数」の導入をしていきたいと考えている。「1次関数の利用」においても、身の回りある具体的な事象を扱い、意欲を持って問題解決に取り組めるような工夫をしていきたい。

伴って変わる数量の関係を「関数」としてとらえ考察する本単元の学習を通して、式やグラフに表すことの有用性に気づかせ、それらを活用することで新たな発見や問題解決につながることを実感させたい。

- 5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力, コミュニケーション能力, 主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル		意欲・態度
	授	表現力・コミュニケーション能力	主体性

レベル1	(話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2	(話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3	(話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4	自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

- (1) 1次関数の意味を理解し、事象のなかから1次関数を見だし、式に表すことができる。
- (2) 1次関数のグラフをかくことができる。
- (3) 1次関数の変域の対応を調べることができる。
- (4) $ax+by+c=0$ の形の方程式のグラフをかくことができる。
- (5) 連立方程式の解を、グラフをかいて求めることができる。
- (6) グラフの交点の座標を、連立方程式を解いて求めることができる。
- (7) 具体的な事象を1次関数で表したり、グラフを利用して事実問題を解いたりすることができる。

7 評価規準

数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・式に表したり、式の特徴について調べようとしたりする。 ・1次関数のグラフに関心を持ち、そのグラフをかいてみようとする。 ・2元1次方程式のグラフがどのようなか調べてみようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1次関数と比例の関係や、1次関数と反比例のちがいを考察することができる。 ・1次関数のグラフと比例のグラフとを比較し、1次関数の特徴を考察することができる。 ・2元1次方程式を2つの変数の関数関係ととらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1次関数となる具体的な事象について、数量の間の関係を式に表すことができる。 ・1次関数のグラフを点をプロットしてかき、関係を調べることができる。 ・$y=ax+b$ の形になおして、傾きと切片をもとにしてそのグラフをかくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1次関数の意味を理解している。 ・1次関数のグラフの特徴を理解している。 ・2元1次方程式のグラフの意味や、1次関数のグラフとなることを理解している。 ・連立方程式の解が、2つのグラフ

<ul style="list-style-type: none"> ・連立方程式の解がグラフを利用して求められることに興味をもとうとする。 ・身のまわりの問題を、1次関数やそのグラフを利用して解決しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの交点の座標を、連立方程式の解と見ることができる。 ・実験で得られた数値の関係を、1次関数と見て考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフを利用して連立方程式を解くことができる。 ・具体的な問題を、1次関数やそのグラフを利用して解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> の交点の座標であることを理解している。 ・1次関数とみて問題を解決することができることを理解している。
--	--	---	--

8 指導計画（全20時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評 価	
			関意	見考	技能	知理	評価規準	資質・能力（評価方法）
課題の設定	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 1次関数の意味を理解し、事象のなかから1次関数を見いだす。（5時間） 	◎	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・式に表したり、式の特徴について調べようとしたりする。 ・1次関数と比例の関係や、1次関数と反比例のちがいを考察することができる。 ・1次関数となる具体的な事象について、数量の間の関係を式に表すことができる。 ・1次関数の意味を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【主体性】（観察）（プリント）（発表）
		単元を貫く問い 自然や社会の中にある数量関係を見つけ、それを活用するにはどうすればいいだろうか。						
情報収集	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 1次関数のグラフをかき、1次関数の変域の対応を調べる。（5時間） 	○	◎	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・1次関数のグラフに関心をもち、そのグラフをかいてみようとする。 ・1次関数のグラフと比例のグラフとを比較し、1次関数の特徴を考察することができる。 ・1次関数のグラフを点をプロットしてかき、関係を調べることができる。 ・1次関数のグラフの特徴を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【主体性】【コミュニケーション能力】（観察）（ノート）（発表）

整理・分析	3	● 2 元 1 次方程式のグラフ (2 時間)	○	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 元 1 次方程式のグラフがどのようになるかを調べてみようとする。 ・ 2 元 1 次方程式を 2 つの変数の関数関係ととらえることができる。 ・ $y=ax+b$ の形になおして、傾きと切片をもとにしてそのグラフをかくことができる。 ・ 2 元 1 次方程式のグラフの意味や、1 次関数のグラフとなることを理解している。 	【表現力】 (観察) (ノート) (発表) 【数学的技能】 (観察) (ノート)
まとめ・創造・表現	4	● 連立方程式の解とグラフ (3 時間)	○	○	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連立方程式の解がグラフを利用して求められることに興味をもとうとする。 ・ グラフの交点の座標を、連立方程式の解と見ることができる。 ・ グラフを利用して連立方程式を解くことができる。 ・ 連立方程式の解が、2 つのグラフの交点の座標であることを理解している。 	【表現力】 (観察) (プリント) (発表) 【活用力】 (観察) (プリント)
実行・振り返り	5	具体的な事象を 1 次関数で表したり、グラフを利用して事実問題を解決する。(5 時間) 【本時 1 / 5】	○	◎	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身のまわりの問題を、1 次関数やそのグラフを利用して解決しようとする。 ・ 実験で得られた数値の関係を、1 次関数と見て考察することができる。 ・ 具体的な問題を、1 次関数やそのグラフを利用して解決することができる。 ・ 1 次関数とみて問題を解決することができることを理解している。 	【主体性】 【表現力】 【コミュニケーション能力】 (観察) (プリント) (ノート) (発表)

単元を貫く問いの終結

伴って変わる数量の関係を実験や観察することで見つかり、その関係を表や式、グラフに表すことで、数量関係を考察し活用することができる。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・ 具体的な問題を、1 次関数やそのグラフを利用して解決することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・ 身のまわりの問題を、1 次関数やそのグラフを利用して解決しようとする。(関心・意欲・態度)

(3) 準備物

- ・ プリント、ホワイトボード

(4) 学習の流れ (16時間目/全20時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力(評価方法)
1 既習事項の確認。[5分]		
<ul style="list-style-type: none"> ・ドリルをする。 ・前時の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ◇既習事項を確認させる。 ◆生徒の「解答」を確認し、実態把握をしておく。 	
2 本時の課題を設定する。[5分]		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>学習課題</p> <p>2人の要望に対してどのようにアドバイスしますか。アドバイスの根拠をデータや表を使って分かりやすく示しながら、2人に説明してみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◇プリントを配布し課題を確認する。 	
3 ねらいを確認する。[5分]		
	<div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>ねらい 問題を、1次関数やそのグラフを利用して解決することができる。</p> </div>	
4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[15分]		
<ul style="list-style-type: none"> ・個人で考える。 ・グループで考える。 それぞれの考えを出し合い話し合う。 ・班の考えをホワイトボードにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇表を作ることができるか確認する。 ◇グラフがかけているか確認する。 ◆「グラフのかき方」を再確認させる。 ◇「グラフ」をどのように活用すればいいか考えさせる。 ◆どの点に着目するか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの問題を、1次関数やそのグラフを利用して解決しようとする。【関心・意欲・態度】 (観察, プリント, ホワイトボード) ★コミュニケーション能力 (観察, プリント)
5 課題解決について発表をする。[10分]		
<ul style="list-style-type: none"> ・グループの考えを発表する。 グループ→全体 	<ul style="list-style-type: none"> ◇それぞれのグループの『考え方』の良い点を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★表現力 (観察, 発表)

<p>予測される生徒の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本コースです。 ・招待客を多くする。 ・貯金する。 		
6 学習のまとめをする。[5分]		
<ul style="list-style-type: none"> ・全体で確認する。 各グループでの求め方についてその『考え方』をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇グラフをどのように活用したか確認する。 ◇各グループにおいて『考え方』にどのような違いがあったか確認する。 	
7 本時を振り返り, 次時につなげる。[5分]		
○振り返りを書く。	<p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフを活用することで, 状況や目的に応じてどのようにしていけばいいか考えることができるということが分かった。 	

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック (パフォーマンス評価)

尺度 (評点・レベル)	記述語
A (理想的)	目的に応じたグラフがかけ, それを分析・考察し, いくつかの解決策を分かりやすく提示できる。
B (合格)	かいたグラフを分析し, 解決策を提示することができる。
C (乗り越えさせたい実態)	グラフがかけず, 解決策へのめどが立たない。

(5) 板書計画

単元

1次関数

ねらい

問題を，1次関数やそのグラフを利用して解決することができる。

学習課題

学習課題

2人の要望に対してどのようにアドバイスしますか。アドバイスの根拠をデータや表を使って分かりやすく示しながら，2人に説明してみよう。

基本コース
のグラフ

さくらさん
希望のグラ
フ

ねらい 問題を，1次関数やそのグラフを利用して解決することができる。

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

「身のまわりの物質」 いろいろな気体とその性質 ～ 身の周りのものから発生する気体 ～

本単元で育成する資質・能力

表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和2年9月18日 4時間目 13:00～13:50
- 2 学年 第1学年2組 (男子15名 女子16名 合計31名)
- 3 場所 本館2F 第1理科室
- 4 単元について

○ 単元観

本単元は、中学校学習指導要領理科第1分野、身のまわりの物質、(2)身のまわりの物質、ア物質のすがた、イ 気体の発生とその性質についての内容を受けて設定したものである。身のまわりの物質に関しては、身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。身のまわりの物質について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現することがねらいである。気体の発生とその性質について、小学校第6学年で、植物が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることを学習指定している。気体の発生や捕集などの実験を通して、気体の種類による特性を理解させるとともに、気体の発生法や捕集法、気体の性質を調べる方法などの技能を身に付けさせることがねらいである。既習事項を活用して、予想を立てて実験を計画し、実験の結果から考察を行い、表現させることを通して、思考力、表現力を育成できる単元である。

○ 生徒観

本学級の生徒は、観察や実験に意欲的に取り組む生徒が多く、自分の意見を積極的に発表することができる。その一方で、観察、実験をしたことから何が分かるかを考察して文章で表現することを苦手としている生徒も少なくない。1学期に行った定期試験の結果を見ると、科学的な思考・表現の項目が学年平均と比べて特に低いことがわかる。また、観察の仕方や実験方法については理解している生徒が多いが、既習事項を活用して科学的に思考したり表現したりすることに課題があると考えられる。

1学期期末試験	「科学的な思考・表現」平均点	「観察・実験の技能」平均点	「自然事象についての知識・理解」平均点
1年2組	15.8/25.0	20.4/25.0	40.5/50.0
1学年	16.2/25.0	20.3/25.0	37.4/50.0

○ 指導観

指導に当たっては、単元の導入部において、大理石に酸性の洗剤をかけると気体が発生するようすを観察させる。「洗剤と大理石がふれたときに発生する気体は何か」という単元を貫く問いを設定し、生徒の中に「この気体は何だろう」という、問題意識を抱かせる課題設定を行い、単元を通して生徒が学びたい、解決したいと思えるように意欲付けることで、生徒の「主体性」を伸ばしたい。未知の気体は何であるか調べるために、身のまわりの気体の捕集法やそれぞれの気体の性質を調べる必要があるため、いろいろな気体の性質を調べさせる。

本時は単元を貫く問いを解決する時間であり、今までの既習事項を活用して未知の気体が何であるかを考察させたい。気体特有の性質を調べ、その結果から未知の気体は二酸化炭素であることに気付かせる。その際、どうやって気体を特定するか理解できない生徒も居ることが予想される。そのため、授業の始めで気体特有の性質の確認テストを行い、確認テストの内容を見ると、実験、考察ができるようにする。

以上のことを通して、気体の性質を調べることで、気体が何であるか区別できることを理解し、知識を用いて、未知の気体が何であるか区別することができるようにしたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	授業の展開の場面で (ミニホワイトボード等を使用して)	表現力・コミュニケーション能力			主体性
レベル1		(話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		(話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

○ 身の回りの物質についての観察、実験を通して、気体の性質について理解させるとともに、物質の性質の基礎を身に付けさせる。

7 評価規準

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
・気体の発生とその性質に関する事物・現象に進んで関わり、それらを科学的に探究しようとするとともに、自鬱現象を日常生活との関わりでみようとする。	・気体の発生とその性質に関する事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、気体の種類による特性などについて自らの考えを導き、表現している。	・気体を発生させる方法や捕集法などの観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理などの仕方を身に付けている。	・気体の種類による特性などについて基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。

8 指導計画（全8問）

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評 価	
			関意	工夫	技能	知理	評価規準	資質・能力（評価方法）
課題の設定	1	身のまわりの気体と気体の集め方 (1時間)	◎				酸素, 二酸化炭素, 窒素など, 空気に含まれている身近な気体に興味をもち, それらの気体について調べようとする。 ○ 気体の捕集法について理解する。	【主体性】 (ワークシート) (授業への取組)
	単元を貫く問い 洗剤と大理石がふれたときに発生する気体は何か。							
情報収集	2	酸素と二酸化炭素の発生とその性質 (2時間)			○		酸素や二酸化炭素の発生や捕集の実験を正しく安全に行うことができる。 ◎ 酸素や二酸化炭素の性質について理解する。	【主体性】 (ワークシート) (授業への取組)
	3	水素, アンモニアの発生と性質 (1時間)	◎			○	水素やアンモニアなどの気体に興味をもち, それらの気体について調べようとする。 アンモニアの噴水実験の結果や原理を, アンモニアの性質と関連づけて説明することができる。	【主体性】 (ワークシート) (授業への取組) 【表現力】 【コミュニケーション能力】 (話し活動・発表)
整理・分析	4	気体の性質のまとめ (1時間)				◎	アンモニアや水素, 窒素などの性質や発生方法, 捕集方法について理解する。	【主体性】 (ワークシート) (授業への取組)
まとめ・創造・表現	5	身のまわりの気体とその性質 (2時間)		◎		○	未知の気体を調べる実験を計画することができる。 ○ 気体の性質を調べることで, 気体が何であるか区別できることについて理解する。	【表現力】 【コミュニケーション能力】 (話し活動・発表) 【主体性】 (ワークシート) (授業への取組)
実行・振り返り	6	洗剤と大理石がふれたときに発生する気体の正体 (1時間) 【本時1/1】		◎		○	気体の性質を調べ, 未知の気体が何であるか区別できることができる。 未知の気体を調べる実験を, 正しく安全に行うことができる。	【表現力】 【コミュニケーション能力】 (話し活動・発表) 【主体性】 (ワークシート) (授業への取組)
単元を貫く問いの終結								
洗剤と大理石がふれたときに発生する気体の性質を調べると, 石灰水を白くにごらせる性質があったため, この気体は二酸化炭素である。								

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○洗剤と大理石がふれたときに発生する気体の性質を調べ、この気体の正体を明らかにすることができる。

(2) 本時の評価規準

- ・気体の性質を調べ、未知の気体が何であるか区別することができる。【科学的な思考・表現】
- ・未知の気体を調べる実験を、正しく安全に行うことができる【観察・実験の技能】

(3) 準備物

- ・教科書、プリント、気体を集めた試験管×5、マッチ、線香、すりガラス入れ、リトマス紙、ミニホワイトボード×8

(4) 学習の流れ（8時間目／全8時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて）	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 既習事項の確認。〔5分〕		
気体の性質の確認テストをする。	◇既習事項を確認させる。 ◆生徒の解答を確認し、実態把握をしておく。	
2 本時の学習課題を設定する。〔5分〕		
本時の学習課題を設定する。	◇実物を使って、気体が発生する様子を観察し、興味を持たせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> 学習課題 大理石と酸性の洗剤から発生した気体の正体を明らかにする。 </div>		
3 本時のねらいを確認する。〔2分〕		
本時のねらいを確認する。	◇既習事項を使えばこの気体の正体が何で	
<div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin: 5px auto; width: 80%;"> ねらい 気体の性質を調べ、その結果から、気体の正体を明らかにしよう。 </div>		
4 情報を整理・分析し、課題解決をする。〔25分〕		
実験器具を用意する。	◇事前に気体を試験管に集めて、各班に5本ずつ用意していることを伝える。 ◇班で手分けして準備できるように、3か所に実験に必要な器具を置いておく。	・ ★【表現力】 （話し合い活動）
実験器具から、謎の気体が何であるか調べる方法を考える。【個人思考】	◇個人で気体を調べる方法を考えさせる。 ◆確認テストの内容を参考にさせる。	

導入の工夫

単元を貫く問い

<p>個人で考えたことをもとに、各班で課題解決のための方法を考える。【話し合い活動】</p> <p>各班で考えた方法をもとに実験を行い、気体の正体を明らかにする。</p>	<p>◇気体を調べる方法を班全体で確認させ、ミニホワイトボードに記入させる。</p> <p>◇においを調べるときは深く吸い込まず、手であおぐようにして調べることを伝える。</p> <p>◇においを調べると無臭であるため、無臭の気体であることに気付かせる。</p> <p>◇マッチの火を近づけても、音を立てて燃え無いため水素では無いことに気付かせる。</p> <p>◇火の付いた線香を入れると、火が消えたため、酸素ではないことに気付かせる。</p> <p>◇石灰水を入れると白くにごったため、二酸化炭素であることに気付かせる。</p> <p>◇水でぬらした赤色リトマス紙を近づけると赤色リトマスが青くなると、アンモニアである。</p>	<p>・[未知の気体を調べる実験を、正しく安全に行うことができる]【観察・実験の技能】</p>
<p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価 この気体は石灰水を白くにごらせる性質があるため、二酸化炭素である。</p> <p>B評価 この気体は二酸化炭素である。</p>		
<p>5 課題解決について発表をする。[10分]</p>		
<p>掲示されたミニホワイトボードについて、書かれた意見をもとに交流を行う。</p>	<p>◇自分達の班と同じ意見を見つけたり、異なる意見や疑問に思ったことに対して質問するなど、ホワイトボードに書いてあることに対して、理解を深めさせる。</p>	<p>・[気体の性質を調べ、未知の気体は何であるか区別することができる。]【科学的な思考・表現】</p>
<p>6 本時のまとめ、ふり返しをおこなう。[5分]</p>		
<p>まとめを書く。 ふり返しをかく。</p>	<p>◇大理石と酸性の洗剤から発生した気体は、石灰水を白くにごらせる性質があるため二酸化炭素であることを確認する。</p>	
<p>生徒の振り返りの例</p> <p>・実験の結果から気体の正体を明らかにすることができた。生活の中で発生する他の気体も調べてみたい。</p>		



ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	気体の性質を調べることで、気体は何であるか区別できることを理解し、知識を用いて、未知の気体は何であるか区別することができる。
B（合格）	気体の性質を理解して、未知の気体が二酸化炭素であることが分かる。
C（乗り越えさせたい実態）	気体の性質が分からず、気体固有の性質が理解できていないため、気体を区別できない。

（5）板書計画

単元名	いろいろな気体とその性質			
ねらい	気体の性質を調べ、その結果から、気体の正体を明らかにしよう。			
学習課題	大理石と酸性の洗剤から発生した気体の正体を明らかにする。			
確認 テスト	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード
	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード

まとめ	この気体は石灰水を白くにごらせる性質があるため二酸化炭素である。
------------	----------------------------------

確認テスト

●下の表は、それぞれの気体を特定するための調べ方と、予想される結果をまとめたものである。

①～⑤の空欄をうめなさい。

気体名	調べ方	結果
(① 酸素)	 火のついた線香を試験管の中に入れる。	線香が激しく燃える。
(② 二酸化炭素)	 試験管の中に石灰水を入れてふる。	石灰水が白くにごる。
(③ 水素)	 マッチの火を試験管の口に近づける。	音をたてて激しく燃え、試験管の口に水滴がつく。
(④ アンモニア)	 手であおぐようにして、においをかぐ。 ・水でぬらした赤色リトマス紙を試験管の中に入れる。	(⑤ 刺激臭) がする。 赤色リトマス紙が青色に変わる。

確認テスト

●下の表は、それぞれの気体を特定するための調べ方と、予想される結果をまとめたものである。

①～⑤の空欄をうめなさい。

気体名	調べ方	結果
(① 酸素)	 火のついた線香を試験管の中に入れる。	線香が激しく燃える。
(② 二酸化炭素)	 試験管の中に石灰水を入れてふる。	石灰水が白くにごる。
(③ 水素)	 マッチの火を試験管の口に近づける。	音をたてて激しく燃え、試験管の口に水滴がつく。
(④ アンモニア)	 手であおぐようにして、においをかぐ。 ・水でぬらした赤色リトマス紙を試験管の中に入れる。	(⑤ 刺激臭) がする。 赤色リトマス紙が青色に変わる。

「お札をキャッチ！」

～すぐにキャッチできない理由を考えよう～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 科学的な思考・表現 (学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和2年9月18日 14:05～14:55
- 2 学年 第2学年1組 (男子16名 女子16名 合計32名)
- 3 場所 第1理科室 (本館2階)
- 4 単元について

○ 教材観

以下に示す学習指導要領理科第2分野の内容に基づいて設定されている。

(3) 動物の生活と生物の変遷

生物の体は細胞からできていることを観察を通して理解させる。また、動物などについての観察、実験を通して、動物の体のつくりと働きを理解させ、動物の生活と種類についての認識を深めるとともに、生物の変遷について理解させる。

イ 動物の体のつくりと働き

(イ) 刺激と反応

動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、その仕組みを感覚器官、神経系及び運動器官のつくりと関連付けてとらえること。

○ 生徒観

以下に本校で7月に実施した学習に関するアンケートの結果を示す。本学級の生徒は、理科学習に対して前向きに取り組んでいる(項目1)。一方で、項目2の結果から、「学習の振り返り活動」、項目3の結果から、「結果の分析や解釈、学習内容の可視化を行う活動」、項目4の結果から「考えを他者に伝える活動」のポイントが低く、充実させる必要があることが明らかになった。

アンケート結果

項目	内容	肯定的	否定的
1	理科の授業に満足している。	97 %	3 %
2	学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。	80 %	20 %
3	授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	77 %	23 %
4	授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。	67 %	33 %

○ 指導観

本指導に当たっては、中学校第2学年の「刺激と反応」という単元で授業を行う。工夫した点は、生徒がより意欲的に取り組めるように「お札をキャッチする実験」を導入とした。また、学習内容がスポーツや日常生活など身近な生活との関わりがあることを実感できるような単元計画を作成した。

さらに、以上のようなアンケートから明らかになった実態を踏まえ、本授業ではジグソー法を行って学習課題を解決する展開を設定した。本校で育成する資質・能力である「表現力, コミュニケーション能力, 主体性」を高めることもねらいとしている。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で (ミニホワイトボード等を使用して)	(話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		(話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

○ 動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、その仕組みを感覚器官、神経系及び運動器官のつくりと関連付けてとらえること。

7 評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
<p>・外界からの刺激に適切に反応するようすに関心をもち、刺激と反応のしくみを意欲的に探究しようとするとともに、自らの生活や体のしくみについて関連させてみようとする。</p>	<p>・刺激に対するヒトの反応時間を調べる実験を通して、刺激と反応までの結果を覚器官、運動器官、中枢神経、感覚神経、運動神経などのしくみやはたらきと関連づけて考えることができる。</p> <p>・反応時間を調べる実験において、繰り返しデータをとる意味を理解している。</p>	<p>・繰り返しデータをとり、結果を処理することができる。</p> <p>・つかみとったものさしの長さから、「対応目もり」を使って反応時間を求めることができる。</p>	<p>・刺激と反応のしくみを理解し、各器官などについての知識を身につけている。</p> <p>・反射のはたらきを理解し、それらのしくみについての知識を身につけている。</p>

8 指導計画（全9時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評 価	
			関意	思考	技能	知理	評価規準	資質・能力 (評価方法)
プロローグ（単元を貫く問い）運動をするとき脳や筋肉はどんなしくみで、活動しているのか。								
課題の設定	1	様々な運動 (1時間)				○	・ヒトや身の回りの動物の動きを観察し、感覚器官や体のしくみに興味を持つ。	ノート, 行動観察
	2	刺激と反応【本時】 (1時間)			○		・ジグソー学習を通して、刺激と反応までの結果を感覚、運動器官、中枢神経、感覚神経、運動神経などのしくみやはたらきと関連づけて考えることができる。	ワークシート 行動観察
	3	感覚器官 骨格と筋肉 (1時間)			○		・ものさしをつかむ実験を通して反応に要する時間を調べることができる。 ○・感覚器官や骨格と筋肉について全員が理解する。	ワークシート
	4	刺激と反射 (1時間)				○	・刺激に対する素早い反射のしくみを理解する。	行動観察
	5	身近な運動		○			・身近な運動について刺激と反応の流れを考えることができる。	レポート
エピローグ（単元を貫く問いの解決）								
運動をするとき、 感覚器官→感覚神経→せきずい→脳→せきずい→運動神経→筋肉→骨が動く								

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○ジグソー学習を通して、お札をキャッチする運動を感覚器官、神経系及び運動器官のつくりと関連付けてとらえること。

(2) 本時の評価規準

【科学的な思考表現】

ジグソー学習を通して、刺激と反応までの結果を感覚、運動器官、中枢神経、感覚神経、運動神経などのしくみやはたらきと関連づけて考えることができる。

(3) 準備物

お札、ものさし

(4) 学習の流れ（8時間目／全9時間）

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力(評価方法)
1 問題のみいだし【5分】		
① 演示実験	◇お札をキャッチし、反応時間を調べる実験を行う。 ◇班の中で一人一実験を行い、お札をすぐにはつかめないことを体験する。	
2 本時の課題を設定する。【5分】		
② 課題設定		
学習課題 なぜお札をすぐにはキャッチできないのか！？ 脳や体がどのように活用されているのか、説明しよう。		
③ 課題に個人で向き合う	学習前における課題に対する答えを考える。	
3 エキスパート活動【10分】		
④ 担当資料を理解する。 ⑤ 担当資料の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ A～Cの資料を読む、課題に取り組む。(個人) A：神経と運動 B：骨格と運動 C：筋肉と運動 <ul style="list-style-type: none"> ・ エキスパート班で教え合いを行う。 ◇持ち帰っていいのはメモ用紙だけであることを伝える。 	
4 ジグソー活動【10分】		
⑥ 理科班で学習課題に取り組む。	ジグソー班(理科班)に戻り、説明しあう。 学び合うことで理解を深める。 学習課題に対する答えをホワイトボードにまとめる。 ◆1人1回だけはボーナスタイムで資料を再	【表現力、コミュニケーション能力、主体性】ジグソー学習を通して資質能力を高める。 行動観察

	確認してよいことを伝える。	
5 クロストーク [10分]		
⑦実験結果を発表する。	・各班の記述や発表の仕方を比較し、内容の理解に加えて分かりやすい発表の仕方を意識させる。	【科学的な思考・表現】 ・ジグソー学習を通して、刺激と反応までの結果を覚器官、運動器官、中枢神経、感覚神経、運動神経などのしくみやはたらきと関連づけて考えることができる。 発表、ワークシート
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>期待したい解答 お札が動いたという刺激を目（感覚器官）で受け取り目→感覚神経→脳と伝わる。脳がお札をつかめという命令を出し、せきずい→運動神経→筋肉へと伝わる。</p> </div>		
6 個人思考 [5分]		
⑧課題に個人で向かい合う。	学習後における課題に対する答えを考える。	
7 振り返り [5分]		
⑨個人で振り返りを行う。	授業前後を比較して成長した考えや成長した力を考える。	

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	お札をキャッチする流れをキーワードや図を使って説明できる。 感覚器官→感覚神経→脳→せきずい→運動神経→筋肉→骨
B（合格）	お札をキャッチする流れをキーワードを使って説明できる。 感覚器官→感覚神経→せきずい→脳→せきずい→運動神経→筋肉→骨
C（乗り越えさせたい実態）	お札をキャッチするときのタイムラグは、体内で起こることを理解する。

(5) 板書計画

学習課題	9/18（金）	今日の流れ	発表
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>なぜお札をすぐにはキャッチできなかったのか。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>Aさん</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>Bさん</p>  </div> </div> <p style="font-size: small;">落下させる</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 お札キャッチ 2 個人思考 3 エキスパート活動 A・B・C 4 ジグソー学習 理科班で理解 5 全体発表 6 個人思考 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ホワイトボード 8班分 2枚目の黒板も使う</p> </div>